

教 授 要 目

付 研究指導要項

昭和 53 年 度

小 樽 商 科 大 学

学年暦 (昭和53年度)
小樽商科大学教授要目

昭和53年	4月1日(土)	前期開始	
	4月14日(金)	2, 3, 4年次開講	
。 学 年 暦		入学式	
	4月17日(月)~4月19日(水)	新入生オリエンテーション	
I 授業科目履修方法	4月20日(木)	1年次開講	1
1 昭和53年度開講科目			1
2 履修方法	7月7日(金)	創立記念日	6
3 科目試験の受験について	7月13日(木)~7月24日(月)	履修科目の取消期間	22
II 教 授 要 目	7月20日(木)	夏季休業	23
1 一般教育科目	8月21日(月)~9月2日(土)	教育実習	23
2 外国語科目	9月19日(火)	臨時休業	28
3 保健体育科目	9月27日(水)	前期定期試験	44
4 基礎教育科目	10月2日(日)	後期授業開始	48
5 専門教育科目	11月11日(土)	研究指導オリエンテーション	51
6 教 職 科 目	11月15日(水)	研究指導休業期間	77
III 研究指導要項	12月7日(木)~12月13日(水)	履修科目の取消期間	80
	12月10日(日)~54年1月18日(木)	集中講義	
		冬季休業	
昭和54年	2月1日(木)	卒業論文提出締切日	
	2月1日(木)~2月10日(土)	学科課程所属オリエンテーション	
	2月13日(火)	学科課程所属募集期間	
	2月14日(水)~2月28日(木)	臨時休業	
	3月17日(土)	後期定期試験	
	3月20日(火)	卒業判定会議	
	3月31日(土)	卒業式	
		後期終了	

目要録録年大塔商興小

入 学 式

学 年 曆 (昭和53年度)

昭	和	日	開講科目	備 考
昭	和	53年	4月1日(土)	前期開始
			4月14日(金)	2, 3, 4年次開講
一 般 教 育 科 目			4月15日(土)	入学式
			4月17日(月) ~ 4月19日(水)	新入生オリエンテーション
			4月20日(木)	1年次開講
			5月13日(土)	履修届締切日
			7月7日(金)	創立記念日
			7月13日(木) ~ 7月24日(月)	履修科目の取消期間
			7月20日(木) ~ 7月26日(水)	集中講義
			7月22日(土) ~ 8月31日(木)	夏季休業
			8月21日(月) ~ 9月2日(土)	教育実習
			9月19日(火)	臨時休業
			9月20日(水) ~ 9月30日(土)	前期定期試験
			10月2日(月)	後期授業開始
			11月11日(土)	研究指導オリエンテーション
			11月13日(月) ~ 11月29日(水)	研究指導募集期間
			12月1日(金) ~ 12月11日(月)	履修科目の取消期間
			12月7日(木) ~ 12月13日(水)	集中講義
			12月10日(日) ~ 54年1月18日(木)	冬季休業
	昭	和	54年	1月31日(水)
外 語 科 目			2月1日(木)	学科課程所属オリエンテーション
			2月1日(木) ~ 2月10日(土)	学科課程所属募集期間
			2月13日(火)	臨時休業
			2月14日(水) ~ 2月28日(水)	後期定期試験
			3月17日(土)	卒業判定会議
			3月20日(火)	卒業式
			3月31日(土)	後期終了
外	中	国	語	須 講 義 師

語	国語	スペイン語	I 4 I	寺崎講師	
			II 4 II		
語		ロシア語	I 4 I	松本教授	
			II 4 II		
保健体育科目		体育実技	I 2 I	杉山教授 藤江川講師	小樽商業高校教諭
			II 2 II		
基礎教育科目		体育講義	2 II	森岡教授	(前期)
		経済学概論	4 I	鶴沢講師	
基礎教育科目		商学概論	4 I	{伊藤教授 山下教授	(前期) (後期)
		法学概論	4 I		{大谷助教 小原教授
		管理科学概論	4 I	{若林助教 沼田助教	
		数学	4 I		白川助教
専門教育科目	経済学	統計学	4 II	長谷部教授	昭和50年度以前入学者は「経済学」と読み替える。 昭和50年度以前入学者は「経済学特論」と読み替える。本学短期大学部助教 (前期) 北海道大学法学部附属スラブ研究施設教授
		数理統計学	4 III	久次教授	
		経済統計学	4 III, IV	長谷部教授	
		経済原論 I	4 II	藤井教授	
		経済変動論	4 III	増井教授	
		経済学史	4 III, IV	野沢講師	
		経済原論 II	4 II, III	安井講師	
		計量経済学	4 III	遠藤講師	
		経済史概論	4 II	井上助教	
		日本経済史	4 III	長谷川助教	
		経済政策	4 III	望月講師	
		工業経済学	4 III, IV	吉武教授	
		社会政策	4 III	吉武教授	
		財政学	4 III, IV	早見教授	
科目	科目	国際経済論	4 III	麻田教授	
		国際金融論	4 III, IV	足立教授	
		金融経済論	4 III, IV	釜江講師	

専門教育科目	商業学	マーケティング	4 II	片桐講師	本学短期大学部教授
		販売管理	4 III	山下教授	
		商業英語	4 III	北村講師	北海道薬科大学教授
		証券市場論	4 III	石原助教	
		証券金融論	4 III, IV	鈴木教授	
		経営学原理	4 II	篠崎助教	(前期)
		企業形態論	4 III	藤田講師	札幌大学経営学部助教
		経営史	4 II, III	辻原講師	(後期)
		労務管理	4 III	伊藤教授	
		生産管理	4 III	中橋助教	
		財務管理	4 III, IV	佐賀講師	本学短期大学部助教
		産業心理学	4 III, IV	和田助教	
		簿記学	4 II	{中島講師 福島講師	
		簿記演習	4 III		渡辺講師
科目	科目	会計学	4 III	久野教授	
		管理会計	4 III, IV	中佐講師	
科目	管理科学	外国書講読	4 III	佐々講師	本学短期大学部講師
		管理科学 II	4 III	若林助教	
		管理科学特講 II	3 III, IV	浅利講師	東海大札幌教養部助教 (前期)
		管理科学特講 III	3 III, IV	"	" (後期)
		事務機械化	6 II	山田助教	
		応用数学(代数)	6 II	沼田助教	
		応用数学(解析)	6 II	小林講師	専修大学北海道短期大学教授
		応用数学(統計 II)	6 III	清水川助教	
		応用数学特講 I	3 II	山口講師	北海道大学工学部講師 (前期)
		応用数学特講 II	3 II	"	" (後期)
科目	科目	計算機論 I	6 II	伊藤講師	北海道工業大学助教
		計算機論 II	6 III	戸島助教	
専門教育科目	法学	憲法	4 II	高見助教	(前期)
		民法 I	4 II	飯塚講師	本学短期大学部助教
		民法 II	4 III	神田助教	
		商法 I	4 III	青竹助教	
		商法 II	4 III, IV	石原講師	本学短期大学部助教

育 科 目	係 科 目	労働法	4	Ⅲ	道幸助教授	
		経済法	4	Ⅲ, Ⅳ	小原教授	
		国際法	4	Ⅲ	大谷助教授	
		国際機構論	4	Ⅲ, Ⅳ	丸山助教授	
		研究指導	12	Ⅲ, Ⅳ	備考(3)参照	
教 職 科 目	教育原理	英語科教育法	4	Ⅲ	松田講師	小樽女子短期大学助教授
			3	Ⅲ, Ⅳ	岩城講師	本学短期大学部助教授
	教育実習		2	Ⅲ, Ⅳ	麻田教授 久野教授 篠崎助教授 若林助教授 岩城講師	本学短期大学部助教授
		教育史	4	Ⅱ	竹田講師	北海道大学教育学部助教授 (後期)
		職業指導	4	Ⅲ	石井講師	北海道教育大学札幌分校 教授
	英語(上級Ⅲ)	英語(上級Ⅳ)	4	Ⅱ~Ⅳ	下村講師	
		英語学Ⅱ	4	Ⅲ, Ⅳ	君羅助教授	
		英文学Ⅱ	4	Ⅱ~Ⅳ	武本教授	
			4	Ⅲ, Ⅳ	協田教授	
			4	Ⅱ~Ⅳ	協田教授	

備考

(1) 本表の専門教育科目については、昭和52年度以前入学者に適用する。

(2) 英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲの担当教官は次のとおりである。

協田教授, 武本教授, 宮岡助教授, 君羅助教授, 下村講師, 菊池講師
(本学短期大学部教授), 高嶋講師(本学短期大学部助教授), 高久講師(北海道大学文学部教授), 北市講師(北海道大学文学部助教授), 片山講師(北海道大学文学部助教授), 浪田講師(北海道大学文学部助教授), 小川講師(北海道大学文学部講師), 小林講師(北海道武蔵女子短期大学教授), 鈴木講師(小樽女子短期大学助教授)

J.B.サンダース外国人教師, R.C.ホルダー外国人講師(北海道大学文学部外国人講師)

(3) 研究指導担当教官は次のとおりである。(学科別)

(経済学科)

麻田教授, 足立教授, 長谷部教授, 早見教授, 久次教授, 藤井教授
増井教授, 吉武教授, 井上助教授, 長谷川助教授, 遠藤講師, 釜江
講師, 野沢講師

(商業学科)

久野教授, 斎藤教授, 鈴木教授, 山下教授, 和田助教授, 石原助
教授, 篠崎助教授, 中橋助教授, 中講師, 辻原講師

(管理科学科)

清水川助教授, 戸島助教授, 沼田助教授, 樋口助教授, 山田助教授
若林助教授

(法学関係)

小原教授, 大谷助教授, 神田助教授, 青竹助教授, 丸山助教授,
高見助教授, 道幸助教授

2. 履修方法

学生は4年間在学し、次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

(1) 単位修得については、各自が所属している、または所属しようとする学科・課程の卒業所要単位一覧表が第1表から第11表に掲げられているから、それぞれの表と「1」の昭和53年度開講科目とで本年度の履修科目を検討し、履修届を提出しなければならない。

なお、表中の単位教は最低所要の単位教を示したものであるから履修の検討には十分な注意を必要とする。

(2) 第1表から第5表までは昭和46年度以降入学者に適用、第6表から第11表までは昭和42年度～昭和45年度入学者に適用されるもので、それぞれの学科・課程に分かれているから学科・課程を決めた場合に、それぞれの表が適用される。

(3) 文学の単位は昭和45年度以前入学者については日本文学・外国文学のうち、いずれか1科目だけが卒業所要単位に算入される。昭和46年度以降入学者については、日本文学のほか、外国文学のうちいずれか1科目が卒業所要単位に算入される。

(4) 英語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)は、1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修である。

(5) 英語以外の外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語)は、いずれか1か国語を選択必修とし、1年次、2年次とも毎週4時間4単位ずつ計8単位を履修しなければならない。

(6) 保健体育科目の実技2単位については、1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$ 、2年次隔週に2時間2単位の $\frac{1}{3}$ 計2単位、講義については、2年次前期毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。

(7) 昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と、「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。

(8) 英語(上級Ⅲ)、英語(上級Ⅳ)、英語学Ⅱ、および英文学Ⅱは高等学校教諭英語2級普通免許状取得のための授業科目であるが、卒業所要単位に算入されない科目として履修できる。

(9) 2年次終了までに、卒業所要単位教に算入される、1、2年次の担当科目について55単位以上を修得していない場合は、(ア)3年次以降配当の専門

科目の履修は認められない、(イ)研究指導に所属できない、(ウ)卒業が1年以上延期されることになっている。また、この単位を在学期間6年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

この55単位の算入については下記のとおりなので、履修上注意すること。

記

一般教育科目	28単位まで算入
外国語科目	16単位 //
体育(実技、講義)	4単位 //
基礎教育科目	8単位 //
専門教育科目	2年次配当科目

ただし、専門教育科目については所属学科以外の科目について、28単位まで算入。また商業教員養成課程については専門科目の外に教職科目も算入する。

(10) 研究指導を履修する学生は所属する学科・課程の区分を問わず各自の志望する研究指導を毎週3時間、3年次から2か年継続授業で12単位(卒業論文を含む)を履修しなければならない。この12単位は昭和42年度～昭和45年度入学者にあっては、それぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目80単位に、また、昭和46年度以降入学者にあっては、それぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目76単位に含まれるものである。

研究指導を履修しない学生(いわゆるノンゼミと称する学生)は研究指導12単位分をそれぞれ所属する学科の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。また、商業教員養成課程に所属する学生にあっては経済学科・商業学科・管理科学科および法学関係の専門教育科目によって充足しなければならない。

なお、昭和42年度～昭和44年度入学者で管理科学科に所属する学生の研究指導単位12単位は必修である。

(11) 商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で高等学校2級普通免許状(商業・英語)の取得を希望する者は、第12表(商業)、第13表の(1)(英語)の単位をそれぞれ修得しなければならない。

また、昭和52年度から「中学校教諭英語科一級」の免許状が取得可能になり、希望する者は、第13表の(2)の単位を修得することによりこの免許状

を取得できる。なお、管理科学科に所属する学生は当分の間この免許状は取得できない。

なお、これらの単位は卒業所要単位以外の単位である。

(12) 単位の互換制について

北海道大学経済学部で下記の授業科目を履修することが認められる。

〔この場合の身分は北大の特別聴講学生となる。〕

(ア) 聴講出願対象者

学則に関する細則1.科目履修細則第4条に規定する〔1, 2年次配当科目55単位以上〕単位数を修得した53年4月現在の4年次生。

(イ) 聴講科目

聴講科目	単位	担当教官	開講時期
北海道経済史	4	林	後期
経営立地論	4	大 爺	後期
産業構造論	2	小 林	後期

① 「経営立地論」は本学の経済学科および商業学科の専門科目、「北海道経済史」と「産業構造論」は経済学科の専門科目として扱い、卒業単位数に算入する。

② 1科目につき20名が限度。

(ウ) 聴講期間 昭和53年4月～昭和54年3月の1年間。

(エ) 聴講料 不要。

(13) 教職科目の一部の隔年開講について

下記のとおりとなるので履修計画に注意すること

隔年開講該当教職科目	53年度	54年度	備 考
教育心理学 (4単位)	×	○	配当年次Ⅱ年
商業科教育法 (2単位)	×	○	配当年次Ⅲ年
職業指導 (4単位)	○	×	配当年次Ⅲ年
英語科教育法 (3単位)	○	×	配当年次Ⅲ, Ⅳ年

○印=開講, ×印=非開講

2-1 昭和46年度以降入学者

イ 一般教育科目, 外国語科目, 保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第1表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区 分	単位教	備 考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上 {商業教員養成課程にあっては法学概論(日本国憲法2単位を含む)}
合 計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち, 外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位数に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位教	授業科目 単位教	授業科目 単位教	授業科目 単位教
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	法学概論 4
歴史学 4	教育学 4	生物学 4	(日本国憲法 2単位を含む)
日本文学 4	政治学 4		管理科学概論 4
英文学 4			数 学 4
ドイツ文学 4			
フランス文学 4			
中国文学 4			
ロシア文学 4			
1科目4単位以上	1科目4単位以上	1科目4単位以上	2科目8単位以上
7科目28単位以上			

(注) 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を一般教育科目「法学」と読み替える。

□ 専門教育科目の履修方法

第2表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学、経済原論Ⅰ、経済政策、経済史概論、国際経済論、金融経済論のうち、いずれか3科目を含める。
商業学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理、会計学、応用数学(代数)、応用数学(解析)、民法Ⅰ、民法Ⅱ、商法Ⅰ、商法Ⅱのうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、経済学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。
昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と読み替える。

第3表 商業学科

区分	単位数	内容
商業学科科目	36	「研究指導」を除いた科目
経済学科科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、商業学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。

第4表 管理科学科

区分	単位数	内容
管理科学科科目	36	「研究指導」を除いた科目
経済学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目 2. 28単位のなかに、統計学、経済原論Ⅰ、経営学原理、会計学のうちいずれか2科目を含める。
商業学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。
昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と読み替える。

第5表 商業教員養成課程

区分	単位数	内容
専門教育科目 (経済学科、商業学科、管理科学科、法学関係の全科目)	44	1. 「研究指導」を除いた科目 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ、統計学、マーケティング、商品学、証券市場論、経営学原理、簿記学、会計学、計算機論Ⅰ、事務機械化、民法Ⅰ、商法Ⅰのうちいずれか6科目(24単位)以上を含める。
教科に関する専門科目	4	職業指導を必修とする。
教職科目	16	教育原理、教育心理学、商業科教育法、教育史、教育実習を必修とする。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、経済学科、商業学科、管理科学科、法学関係の各科目から、さらに12単位を履修しなければならない。
昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と読み替える。

2-2 昭和42年度～昭和45年度入学者

イ 一般教育科目，外国語科目，保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第6表 経済学科・商業学科および管理科学科

区 分	単位数	必 修 科 目
一般教育科目	人文科学系	12 3科目以上
	社会科学系	8 2科目以上
	自然科学系	8 2科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	(英語(I・II・III)) 英語以外の外国語(5科目)のうち、いずれか1科目
保健体育科目	4	実技，講義
基礎教育科目	16	経済学概論，商学概論，管理科学概論，数学
合 計	66	
備考 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち、日本文学および外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。		

第7表 商業教員養成課程

区 分	単位数	必 修 科 目
一般教育科目	人文科学系	12 3科目以上
	社会科学系	12 経済学概論，法学(日本国憲法) ^(2単位を含む) を含め3科目以上
	自然科学系	12 数学を含め3科目以上
	計	36 9科目以上
外国語科目	18	(英語(I・II・III)) 英語以外の外国語(5科目)のうち、いずれか1科目
保健体育科目	4	実技，講義
基礎教育科目	8	商学概論，管理科学概論
合 計	66	
(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち、日本文学および外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。		

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系	社会科学系	自然科学系	基礎教育科目
授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数	授業科目 単位数
哲学 4	社会科学概論 4	物理学 4	経済学概論 4
倫理学 4	社会学 4	自然科学概論 4	商学概論 4
心理学 4	社会思想史 4	化学 4	法学概論 4
歴史学 4	政治学 4	生物学 4	(日本国憲法) (2単位を含む)
日本文学 4	教育学 4		管理科学概論 4
外国文学	英文学 4		数 学 4
	ドイツ文学 4		
	フランス文学 4		
	中国文学 4		
	ロシア文学 4		
3科目 12単位	2科目 8単位	2科目 8単位	全科目 必修
7科目 28単位			4科目 16単位
(注) 昭和52年度以前入学者は「経済学概論」，「法学概論」，「数学」を一般教育科目「経済学概論」，「法学」，「数学」と読み替える。			

第8表 経済学科

区 分	内 容	単位数
必修科目	統計学, 経済原論 I, 経済史概論, 経営学原理, 会計学, 民法 I, 商法 I	28
選択科目	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	24
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目	
	研究指導	
計		12
計		80
卒業所要単位		146
備考		
<ul style="list-style-type: none"> 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。 		

[注] 14頁から19頁に記載されている別表第1とは学則第11条の別表第1を示す。

区 分	内 容	単位数
必修科目	マーケティング, 経営学原理, 労務管理, 簿記学, 会計学, 統計学, 経済原論 I, 民法 I, 商法 I	36
選択科目	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	20
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目	
	研究指導	
計		12
計		80
卒業所要単位		146
備考		
<ul style="list-style-type: none"> 研究指導を履修しない者は, 商業学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。 		

第10表 管理科学科

a 管理科学コース (昭和42~44年度入学者)			
区分	内容	単位数	
必修科目	研究指導, 統計学, 経済原論 I	20	
選択科目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	36	
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	8	
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目		「必修科目」および「研究指導」を除いた科目
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目		「研究指導」を除いた科目
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目		「研究指導」を除いた科目
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目		「必修科目」および「研究指導」を除いた科目
計		80	
卒業所要単位		146	
備考			
1. 研究指導について「管理科学研究指導 I」または「管理科学研究指導 II」を履修しなければならない。 2. 「管理科学研究指導 I」の履修者は「管理科学 I」の、「管理科学研究指導 II」の履修は「管理科学 II」の単位を修得することができない。 3. 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。			

b 管理科学コース (昭和45年度入学者)

区分	内容	単位数	
選択必修科目	統計学, 経済原論 I, 経営学原理, 会計学のうちから	8	
選択科目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	「研究指導」を除いた科目	
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	24	
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目		「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目		「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目		「研究指導」を除いた科目
	研究指導		
計		12	
卒業所要単位		80	
卒業所要単位		146	
備考			
1. 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 2. この表は昭和45年度入学者に適用する。 3. 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。			

c 機械化会計コース (昭和42~44年度入学者)

区 分	内 容	単位数
必修科目	研究指導, 統計学, 経済原論 I, 簿記学, 会計学	28
選択科目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハに掲げる授業科目)	24
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	12
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイに掲げる授業科目)	
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロに掲げる授業科目)	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニに掲げる授業科目)	
商業学科科目 (別表第1の(5)のロに掲げる授業科目)	16	
計		80
卒業所要単位		146
備考		
1. 研究指導については、「機械化会計研究指導」を履修しなければならない。 2. この表は昭和42年度生から適用する。 3. 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。		

d 機械化会計コース (昭和45年度入学者)

区 分	内 容	単位数
必修科目	統計学, 経済原論 I, 簿記学, 会計学	16
選択科目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハに掲げる授業科目)	24
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	28
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイに掲げる授業科目)	
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロに掲げる授業科目)	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニに掲げる授業科目)	
研究指導	12	
計		80
卒業所要単位		146
備考		
1. 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 2. この表は昭和45年度入学者に適用する。 3. 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。		

第11表 商業教員養成課程

区 分	単位数	必 修 科 目
専 門 教 育 科 目 (経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係 科目の全科目)	48	統計学, 経済原論 I, 経営学原理, 簿記学, 会計学, 民法 I, 商法 I
教科に関する専門科目	4	職業指導
教 職 科 目	16	教育原理, 教育心理学, 商業科教育 法, 教育史, 教育実習
研 究 指 導	12	
計	80	
卒 業 所 要 単 位	146	
備 考 1. 専門教育科目のうち必修科目以外の科目の履修は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係科目の全科目から履修することができる。 2. 研究指導については, 経済学科研究指導・商業学科研究指導・管理科学研究指導 I・管理科学研究指導 II・機械化会計研究指導および法学関係研究指導のうちいずれかひとつを履修するものとする。 3. 研究指導を履修しない者は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科および法学関係の科目について, 「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 4. 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。		

第12表 商業教員免許資格取得希望者の単位修得方法

区 分	単位数	必 修 科 目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法 2 単位を含む)
教職に関する 専 門 科 目	16	教育原理 4 単位, 教育心理学 4 単位, 商業科教育 法 2 単位, 教育実習 2 単位, 教育史 4 単位
教科に関する 専 門 科 目	4	職業指導
合 計	20	
備 考 1. この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用するもので, それぞれの学科の卒業所要単位のほかに上記の単位数を修得しなければならない。 なお, 卒業所要単位の中には商業の関係科目 (16単位) を次の科目の中から修得しなければならない。 統計学, 経済原論 I, マーケティング, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 事務機械化, 計算機論 I, 民法 I, 商法 I 2. 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を一般教育科目「法学」と読み替える。		

第13表 英語科教員免許資格取得希望者の単位修得方法

(1) 高等学校教諭の場合

区 分	単位数	必 修 科 目	選 択 科 目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法 2 単 位を含む)	
教科に関する 専 門 科 目	32	英語学 I } 英語学 II } 16単位 英文学 I } 英文学 II }	商業英語 英語(上級 I) } " (上級 II) } 16単位 " (上級 III) } " (上級 IV) }
教職に関する 専 門 科 目	17	教育原理 4 単位, 教育心理 学 4 単位, 英語科教育法 3 単位, 教育実習 2 単位, 教 育史 4 単位	
合 計	49		
備 考 1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし, 商業教員養成課程の学生は, 教科に関する専門科目の単位数と, 教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。 2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は, 12表, 13表両方の場合に併合できる。 3. 昭和52年度以前入学者は「法学概論」を「法学」と読み替える。			

(2) 中学校教諭の場合

上記(1)の「教職に関する専門科目」のほか、さらに「道德教育の研究」2単位を修得すれば、管理科学科所属の学生を除いて中学校教諭英語科一級普通免許状をも取得できる。

3. 科目試験の受験について

定期試験（前期，後期）およびこれに準ずる試験を受験する場合，次の注意事項を厳守して，不利益をうけることのないよう十分留意してください。

★受験に際しての注意事項（科目試験実施要項の要約）

1. 指定された席に着席すること。（指定の席は，履修届により決定され，また試験開始5分前には着席していること。）
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない。
3. 試験時刻におくれた者は原則として受験できない。ただし，20分以内の遅刻者は，事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了10分前以後は退場できない。
6. 教科書，参考書，ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め，これらむき出しのまま机の中に入れてはいけないこと。
7. 教科書，参考書，ノートなどの参照を許された試験においては，それらの貸借をしてはならない。受験生の間で，貸借のあった場合は，それを不正行為とみなす。
8. 試験において，私語，その他不正行為の疑惑を招くような行為のないよう特に留意し，厳正な態度で受験すること。
9. 配布された答案用紙は必ず提出し，これを持ち帰ってはならない。
10. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させられる。

II 教授要目

1 一般教育科目

哲 学 教授 渡 辺 祐 邦

哲学史上の代表的な思想に触れながら，哲学の伝統的諸問題とその意味について考察します。その目的は，自由で強じんな思索力を養成することです。各自が講義中にあげる基本文献をよく読み，かつ附属図書館の各種参考文献を利用して哲学的思索を試みることを望みます。参考文献，今年度のテーマなどについては，講義中に述べます。

心 理 学 助 育 授 和 田 完

現代心理学の基本的性格を平易に解説し，基礎的な法則や概念を理解してもらうことを目的とする。まず，行動科学としての成立を史の見地に立って説明し，動機づけ，知覚，学習などの話題のいくつかを提供するだろう。また，日常生活との関わりを保ちながら，知能の問題や社会行動の具体例が論じられる。授業の進行と並行して何冊かの参考書が指摘されようが，特に下記の本は頻繁に利用される。

和田完，馬場雄二著「人間」明玄書房

歴 史 学 助 教 授 栗 生 沢 猛 夫

本年は歴史学とはいかなる学問か，歴史的に考えるというのはどういうことか，そもそも歴史とは何なのかについて，西欧における歴史意識の発展をたどりながら考えて行きたい。その際，このような課題が追究されたのは（すなわち歴史が対象化されて考えられたのは），すぐれてヨーロッパにおいてであったから，そこにおいて表明された歴史思想や歴史意識には，ヨーロッパ的とでも形容すべき特質が認められる。講義ではそれがいかなるもの

であったのかにも注目してみたい。テキストは特に指定しない。講義のなかで種々の文献を紹介、解説する。

日本文学

教授 細谷直樹

(A)『徒然草』は今日のわれわれにも親しみやすい古典だが、一步入り込むと、その世界はどこまでもひろがって、どうもうまく読めない。うまく読むということは、相手に本音を聞かせてもらうことなのだが、相手はなかなか本音を吐かない。しかし、こちらの耳の澄まし方を正せば、『徒然草』そのものの中から、執筆の意図とその世界の秘密を語る兼好の声が聞えて来そうな予感がするので、この予感を確かめたい。

教科書、西尾実校注『徒然草』（岩波文庫）

(B)『源氏物語』はどうも読みづらい。にもかかわらず、読み出すと、途中で投げ出しかねる不思議な魅力がこの物語は持っている。この魅力の正体は何なのかを考えようと思う。

教科書、山岸徳平校注『源氏物語（三）』（岩波文庫）

ドイツ文学

教授 中川勇治

ハインリヒ・ハイネの生涯と作品を概観するが、特に『ロマン派文学』を取りあげて、ドイツ文学導入への一助となしたい。受講者の希望があれば、後期に原書講読を行う予定である。

参考書

井上正蔵著『ハインリヒ・ハイネ——愛と革命の詩人——』（岩波新書）

ロシア文学

教授 松本忠司

講義は大きく二つの部門にわけて行なう。

(I) 第一の部門は、ロシア文学の成立と展開をめぐる諸問題を扱う。

1) インテリゲンツィヤの成立とその背景 2) 批判的リアリズムの成立とその系譜 3) 農奴解放期の文学 4) 世紀末の文学

(II) 第二の部門は、ゴーリキイと19世紀末ないし20世紀初頭のロシア文学の諸問題を取り上げ、マクシム・ゴーリキイの生涯と文学創作を中心

的に検討しながら、文学と人間・時代・社会のかかわりあいを考究していく。

受講者にたいしては、ロシア語の知識を要求しないが、あらかじめ文学史的知識を用意しておくよう希望する。参考文献については、必要に応じて、講義のなかで示すが、さしあたり、Iについては、金子幸彦著「ロシア文学案内」（岩波文庫）、大木・松本ほか共著「ロシア文学の世界」（文化書房博文社、5月刊予定）、IIについては、松本忠司著「ゴーリキイ研究(1)作家への道」（理想社）、同編訳「ゴーリキイ文芸書簡」〔I～II〕、グルーズジェフ著、山村房次訳「ゴーリキイの運命」〔上・下〕（新日本出版社）をあげておく。

社会科学概論 (集中講義 2単位)

非常勤講師 岡田与好

(東京大学社会科学研究所教授)

社会学

非常勤講師 土肥恒一

(小樽商科大学短期大学部講師)

「近代化」をめぐる諸問題

前期、「近代化」とは何か。戦後日本の社会科学の諸分野で一斉に唱えられた「近代化」をめぐる諸々の議論を、その近代・前近代認識という視点から検討することにより、この概念の意味をあきらかにしていきたいと思えます。

後期、「近代化」論の現在。現代アメリカにおける「後進国」研究の一方法として出発した「近代化」（あるいは「工業化」）論について紹介するとともに、その近現代ロシア論を素材に取り、具体的な批判を試みたいと思えます。

※参考文献は、その都度指示します。

社会思想史

助教授 倉田 稔

火曜日は講義とし、木曜日は講義よりもプロ・ゼミ方式を採用する。選択は自由。木曜日の受講生には、研究課題を提出していただき（2回目）、火曜日の受には講生レポートを出してもらい（五月末）。

政治学 (集中講義) 2 単位

非常勤講師 阿部 四郎

(東北大学教養部助教授)

物理学

助教授 原田 稔

現代物理学の大きな基礎の一つである量子論についての初等的な解説をジョージ・ガモフ著「現代の物理学—量子論物語」（河出書房新社）にそって行なう予定。

化学

教授 齋藤 要

化学の教育体系は化学を専攻する学生にとって都合よくできているようである。教養過程の化学は、この体系を希釈したり、あるいは一部を拡大したものであるが、本年度は化学における認識対象である物質世界と、それを追求する方法論について検討を加え、さらに応用化学部門として技術革新に対応する石油化学の実態とその発展がもたらす諸問題などについて述べたいと思う。なお教科書は使用しないが、参考書は必要に応じて紹介し、さらにおりを見て実験も行う。

生物学

非常勤講師 金沢 代 甫

(北海道大学理学部助手)

ここ数十年の人間社会の著しい発展と変化に伴って、人類を含めた地球上の生物はおのれを取巻く環境の変化への対応を迫られるわけであり、生命科学はその寄与するところを人類の幸福のみに限った場合でも、微生物から高等動植物に至る生物体の「生命」を考えなければならない時代になっている。言うまでもなく私たちヒトのように高等生物と言われる生体でも、細胞をひとつの基本単位とし、それらが集合して組織さらに器官を作り、そして統一ある生物体を形成する。すなわち生体は細胞から成り、細胞自体が本質的に生体でもある。

これらのことを考えつつ、講義では先ず細胞の構造と機能についてから始める。種々の細胞内小器官がそれぞれ独自の機能を発揮し、互に調和的に作用することを説明する。それに続いて発生や遺伝などの問題に触れて行くが、生体が物質代謝（メタボリズム）の面からみてもエネルギーと物質を外界と交換しつつ、高度で精妙な調節機構を保持しており、また巨視的にもその構成分子においても同じものを複製する（自己増殖）性質を持っている複雑な有機体である以上、それらについての短時間での説明は概論的にならざるを得ないので、ここでは出来るだけ基本的な問題をそれぞれのトピックスをまじえつつ話を進める予定である。

必要に応じて図表を配布し、また参考書を紹介することはあるが、テキストは特に使用しない。

2 外国語科目

英語

(A) 英語履修方法

- (1) 英語の授業は、教室内における2時間の講義に対し、教室外における1時間の学習を必要とするものとし、毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする。(学則第12条の2参照)
- (2) 英語(I・II・III)は1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。(学則第10条および第11条別表第1の(2)参照)
- (3) 昭和52年度の英語クラス配置および教科の種別は別表の通りである。
- (4) 別表のうち、Eではじまる3ケタの数字はクラス別をあらわす記号である。3ケタ目の1, 2, 3は履修基準年次で、2ケタ目は教科の種別を示している。0は文学作品の講読。1は評論, 伝記, 語学書等の文学作品以外の講読で、2は会話作文等, 3は文法である。1ケタ目の1, 2, 3……はクラス別を示す。
- (5) 基準年次に配当されているクラスの選択は自由である。しかし、英語Iは講読2単位と他のクラスの講読か会話若しくは文法のうちいずれか2単位合計4単位、英語IIは同じく講読2単位と他のクラスの講読か会話作文等のうちいずれか2単位合計4単位、英語IIIは講読2単位を選択履修すること。
- (6) 履修する学生は教授要目をよく読み、最初の授業に出席した上で自主的にクラスを選択すること。
- (7) 履修登録の手続きは、希望するクラス名をカードに書き込み、学生課の窓口へ提出すること。詳細について別途指示する(学生課の掲示に注意)。なお、当然のことながら、学生部長へ提出する「履修届」には、この登録の結果を記入すること。

(B) 別表 (昭和53年度英語クラス)

	I	II	III
講 学 作 品	E101 脇田	E201 脇田	E301 脇田
	E102 脇田	E202 君羅	E302 君羅
	E103 君羅	E203 片山・北市	E303 Sanders
	E104 君羅	E204 片山・北市	E304 高久
	E105 前期 小川 後期 宮岡	E205 高久 E206 高久	
	E106 前期 小川 後期 宮岡		
読 論 ・ 伝 記 ・ 語 学 書 等	E111 武本	E211 武本	E311 武本
	E112 武本	E212 下村	E312 下村
	E113 下村	E213 前期 鈴木 後期 宮岡	E313 前期 菊池 後期 宮岡
	E114 高嶋		
	E115 浪田	E214 前期 鈴木 後期 宮岡	
	E116 小林		
	E117 小林	E215 浪田	
会 話	E121 Sanders	E221 Sanders	
	E122 Sanders	E222 Sanders	
	E123 Sanders	E223 Holder	
	E124 Sanders		
作 文	E125 Holder		
	E126 Holder		
文 法	E131 下村		

英語 I

[英語共通試験実施要項]

1. 英語I履修者には課外テキストを指定し、年2回共通試験を行なう。
2. 共通試験は、前期及び後期の各定期試験期間中に行なう。どちらか1つの試験に合格すればよい。
3. 共通試験に合格しなければ、クラスでの成績如何にかかわらず、英語Iの単位(2クラス4単位)を取得することができない。

4. 共通試験に合格しても、クラスでの成績が合格点に達しなければそのクラスの単位を取得できないのはもちろんであるが、この場合、再履修する時に共通試験はあらためて受けなくともよい。

5. 英語Ⅰを受講した者は、共通試験の成績に関係なく、全員が英語Ⅱを履修できる。

6. 課外テキスト

イ. (昭和50年度生・昭和51年度生)

小川芳男著「高等英文法」有精堂, ¥980.

(ただし、希望者は下記のテキストにより受験してもよい。)

ロ. (昭和52年度生・昭和53年度生)

細江逸記著「新要約英文法」篠崎書林.

◦ E101 } 教授 脇田 勇
◦ E102 }

テキスト : W. Somerset Maugham, *The Kite and Other Stories*.

(中野好夫編註) 英宝社, ¥750.

◦ E103 } 助教授 君羅久則
◦ E104 }

テキスト : P. Shaffer, *Black Comedy*.

成美堂, ¥750.

◦ E105 } (前期) 非常勤講師 小川泰寛
◦ E106 }

(北海道大学文学部講師)

テキスト : Thomas Hardy, *Alicia's Diary*. (『姉の日記』) <1887>

成瀬小四郎註解 成美堂, ¥450.

(後期) 助教授 宮岡伯人

◦ E111 } 教授 武本昌三
◦ E112 }

テキスト : (1) Richard Goodman, *Oh! England!* 金星堂, ¥780.

(2) Peter Bromhead, *The American Experience Now*.

英潮社, ¥580.

(3) D. W. Gilbert, *The Turning Point in Reading*.

文理, ¥900.

(1)を前期に、(2)を後期に用いる。(3)は前・後期を通じて(1)、(2)と併用する。Readingのみならず、writingやhearingのpracticeにも力を入れていく。開講時のorientationで、授業内容等についての詳細を確かめ、納得した上で選択していただきたい。

◦ E113 講師 下村 五三夫

テキスト : Ved Mehta, *John Is Easy to Please*. 英潮社, ¥650.

◦ E114 非常勤講師 高嶋 稔

(小樽商科大学短期大学部助教授)

テキスト : B. Foster, *The Changing English Language*.

成美堂, ¥630.

A. Wilkinson, *In Your Own Words*.

太陽社。

平易な英文を読んで、その要旨を的確に把握することと科学的な英文の内容を正確に理解する読解力を身につけることを中心とし、英語はどのような言語か、を知る手掛りを得ようとするのがこのクラスの目的である。

時間が限られているので、教室では英語を日本語におきかえる、いわゆる、逐語訳は行なわない。各自が前もってテキストを読み、英文の理解や内容に関する疑問点と問題点を教室に持ち寄り、みんなで検討する方法をとる。従ってテキストを全然読まないでクラスに出席することは無意味である。授業は学生の自主的・積極的な勉強を前提としてすすめる。

テキストの内容その他については、最初の授業の時に詳細に話すので、履修希望者は必ず出席されたい。

◦ E115 非常勤講師 浪田 克之介

(北海道大学文学部助教授)

テキスト : Alan Sillitoe, *The Long Piece*. 桐原書店, ¥500.

講読を中心とするが、同時にこの標準的現代英語によるエッセイは英語表現の素材としても活用する。

◦ E116 } 非常勤講師 小林 謙一
◦ E117 }

(北海道武蔵女子短期大学教授)

テキスト : Ethel and Martin Tiersky, *American Culture and Traditions*. 朝日出版社, ¥780.

このテキストは Ethel and Martin Tiersky 著 *The U. S. A.—Customs and Institutions* の一部である。この著者は「外国語としての英語」の教科書として多くのアメリカの大学で使用されている。サブタイトルとして *Customs and Institutions* と付記されているように、アメリカの文化と伝統を最も活用度の高い解説的文体で読者にわかり易く分析・記述しており、言語と内容のバランスがよくとれていると言える。頻度の高い慣用語句・語法が用いられ、内容的には現代アメリカ文化の種々面——国民性、家庭生活・教育・宗教・移民など——に言及しているので、この演習は、語学力の充実をはかるとともに、アメリカを形成している文化と伝統についても知識を深めさせることを目的とする。

◦ E121 (A & B)
◦ E122 (A & B)
◦ E123 (A & B)
◦ E124 (A & B) 外国人教師 Jon Barry Sanders

Text : Robert Lado, *Lado English Series*, Book 2.

These are classes in oral or spoken English, and the course is based upon the Language Laboratory. Students in these classes are required to

attend the Language Laboratory each week to listen to that week's lesson. Classroom work emphasizes oral drill and conversation. There will be a mid-year and a final examination, both oral. Attendance is important. Any student who misses more than five (5) classes will not pass.

◦ E125 } 非常勤講師 Robert C. Holder
◦ E126 }

(北海道大学文学部外国人教師)

Texts: (1) *New Horizons in English 4*
(2) *New Horizons in English 4-Workbook*

In these courses, the emphasis will be upon the practice of spoken English. We will spend some time in the language lab. each week. There will be homework assigned every week—either reading or writing assignments, or both. There will be no major exams. Instead, I will give occasional small tests and speaking assignments in class. A large part of your grade in this course will depend upon Your participation in the class. Therefore, frequent absences will lower Your grade.

◦ E131 講師 下村 五三夫

テキスト : A. S. Hornby, *Guide to Patterns and Usage in English*, Oxford University Press.

文法を統語構造の面から指導します。英文の材料として様々な分野におけるトピックをプリントにして配布し、講読します。共通試験未修の二年次以上の希望者のみを対象とし、一年次生はこのクラスを履修することが出来な

い。
※このクラスの単位取得者は共通試験に合格したものとみなす。

英語 II

◦ E201 教授 脇田 勇
テキスト: W. Somerset Maugham, *The Lotus Eater & Gigolo and Gigolette.* (磯川治一註解) 成美堂, ¥550.

◦ E202 助教授 君 羅 久 則
テキスト: Muriel Spark, *The Girls of Slender Means.* 新日本教文大学社, ¥500.

◦ E203} (6月末) 非常勤講師 片 山 厚
◦ E204} (まで) (北海道大学文学部助教授)

(7以降) 非常勤講師 北 市 陽 一
(北海道大学文学部助教授)

テキスト: J. Rhodri H. Jones, *Sapporo Sketchbook—Cuckoos in the Nest—* 弓書房, ¥680.
Louis Heren, *The Story of America.* 英宝社, ¥1,300.

なお、前期の授業を3分の1以上欠席した受講生には前期の試験の受験を認めません。後期についても同様です。

◦ E205} 非常勤講師 高 久 真 一
◦ E206} (北海道大学文学部教授)

テキスト: K. A. Porter, *Flowering Judas and Other Stories.* 南雲堂, ¥680.

アメリカ女流作家キャサリン・アン・ポーターの短編小説を読む。出席を重要視し、前期後期それぞれ2回以上のテストを行なう。

◦ E211 教授 武 本 昌 三

テキスト: (1) David Kung, *An American Story.* 金星堂, ¥790.
(2) Edward Seidensticker, *Japanese and Americans.* 朝日出版社, ¥680.

(1)からはじめて、終われば(2)に移る。
逐語訳は行なわず、reading と並行して、出来るだけ多く、hearing practice, writing test などを取り入れていきたい。クラスワークを重視するので、前期に1/3以上欠席した者は履修者名簿から除外し、後期の出席を認めない。

◦ E212 講師 下 村 五三夫

テキスト: Erich Fromm, *The Heart of Man, Its Genius for Good and Evil.* Perennial Library, Harper & Row, Publishers.

◦ E213} (前期) 非常勤講師 鈴 木 良 克
◦ E214} (小樽女子短期大学助教授)

テキスト: *American Life.* 松柏社。
B. Smith の *Why We Behave like Americans* からの第5章と8章を読む。

(後期) 助教授 宮 岡 伯 人

◦ E215 非常勤講師 浪 田 克之介
(北海道大学文学部助教授)

テキスト: C. P. Snow, *Variety of Men.* 英宝社, ¥800.
エッセイ講読の時間であるが、又書きかえなど基本的英文表現の訓練をも加味する予定。

◦ E221 外国人教師 Jon Barry Sanders

Text : Robert Lado, *Lado English Series*, Book 3.

This is a class in oral English. It is particularly for those students who wish to develop and improve their speaking ability. Students will be required to attend the Language Laboratory each week. The classroom work will be oral drill and conversation. Examinations will be oral, and attendance is very important.

◦ E222 外国人教師 Jon Barry Sanders

Text : Haydn, Pilgrim, & Haggard, *Mastering American English*. Tuttle, ¥900.

These are classes in English composition, and the emphasis will be upon gaining skill in writing in English. The course will begin with a review of the mechanics (especially punctuation) of English grammar and move on to a consideration of various types of sentences. Following this, there will be practice in writing paragraphs and longer compositions. The goal of the class is for each student to gain ability and confidence in writing English clearly and correctly. There will be no examinations in the course, but there will be many writing assignments. Students may also be asked to keep journals. Attendance is very important—any student who misses more than five (5) classes will not pass.

◦ E223 非常勤講師 Robert C. Holder

(北海道大学文学部外国人教師)

Texts: (1) *New Horizons in English 6*
(2) *New Horizons in English 6-Workbook*

We will try to practice reading, writing, and speaking English in this course, but the main emphasis will be upon writing. There will be no major exams. Your grade will be based largely upon your week-to-

week work in class and upon homework assignments. Therefore, frequent absences will lower your grade. We will spend some time in the language lab. every second week. Written assignments will be based mainly on stories in the text: you will be asked to write the same or similar stories in your own words, using the grammatical patterns and vocabulary of the originals.

英語 III

◦ E301 教授 脇田 孝 勇

テキスト : Somerset Maugham, *The Summing Up* (II). (私の信条). 大阪教育図書, ¥580.

◦ E302 助教授 君 羅 久 則

テキスト : W. Shakespeare, *Macbeth*. 研究社, ¥550.

◦ E303 外国人教師 Jon Barry Sanders

Science Fiction

Texts: Asimov, Bester, and Bradley, *A Selection from Fantasy and Science Fiction*. ¥600.

George Lucas, *Star Wars*.

This is a class about science fiction. In addition to the reading we will do in class, I will ask each student to see two movies —*CLOSE ENCOUNTERS OF THE THIRD KIND* and *STAR WARS*— and to give a short report about a science fiction book he has read. There will be a mid-year and final examination. Attendance will be important.

◦ E304 非常勤講師 高久真一

(北海道大学文学部教授)

テキスト: John Galsworthy, *Indian Summer of a Forsyte*.

研究社, ¥460.

イギリスの小説家ジョン・ゴールズワージーの作品を読む。出席を重要視し、前期後期それぞれ2回以上のテストを行なう

◦ E311 教授 武本昌三

テキスト: (1) Joyce McDonnell, *The Japanese People*. 弓書房, ¥580.

(2) Peter Milward, *Living and Learning in Japan*.

弓書房, ¥650.

毎年このクラスでは、reading のあとで、かなり徹底した speaking, writing の practice を行っており、dictation や英作文のテストの回数も、年間20回に及んでいる。今年も、上記(1), (2)のテストにより、同様の授業を進めていくことになるので、このような授業内容やクラスの性格をよく理解した上で選択していただきたい。

◦ E312 講師 下村五三夫

テキスト: Edward T. Hall, *The Hidden Dimension*. Anchor Books, Double Day & Company, Inc.

E313 (前期) 非常勤講師 菊池昭

(小樽商科大学短期大学部教授)

テキスト: Jean-Paul Sartre, *What Is Literature?* 松柏社, ¥480.

(後期) 助教授 宮岡伯人

ドイツ語 I・II

下記のクラス編成に従って受講すること。所属クラスは別途発表する。

	ドイツ語 I	ドイツ語 II
火	A 組 } (ヴァルベラー) B 組 } (柘田)	A 組 } (グァルベラー) B 組 } (柘田)
木	a 組 (中川) b 組 (柘田) c 組 (加納)	A 組 (加納) B 組 (柘田)

ドイツ語 I・II

外国人講師 Ulrich Warberer
(北海道大学文学部外国人教師)

火曜日 { 講師 柘田 義一

テキスト ドイツ語 I (A・B) …フォルダーヴェルベケ/嶋屋

「ドイツ語初級コース」郁文堂

ドイツ語 II (A・B) …フォルダーヴェルベケ/嶋屋

前年度よりの継続

火曜日のドイツ語はドイツ人講師を中心とする会話主導の授業となる。日本人教師は介添役としてドイツ人講師と学習者とのギャップを補填することになろう。なお、ドイツ語 II は前年度からの継続である。

◎週二回の授業のうち、一回はドイツ人講師中心の授業となる点は、従来と同じである。この時間の主眼は、ドイツ語の文章構造や基本文型の理解と習得を、事情の許す限り耳と口とを通して行なうことにある。

木曜日

ドイツ語 I a 教授 中川 勇 治

文法を中心にドイツ語の基本構造を理解するのが授業の目的である。時間

的に制約があるので受講者の集中的な学習を望む。

テキスト：中村英雄他「緑のドイツ文法」朝日出版社
参考書、辞典については授業中に説明、紹介する。

ドイツ語 I b 講師 栞田 義一

テキスト 大岩信太郎「改訂ドイツ文法第一歩」郁文堂 ¥1,200.

ドイツ語 I c 非常勤講師 加納 邦光

(北海道大学助教授)

テキスト 常木 実「ドイツ文法スケッチ」朝日出版社

ドイツ語 II A 非常勤講師 加納 邦光

(北海道大学助教授)

テキスト ヴィーヘルト・信貴編「七人の息子」朝日出版社

ドイツ語 II B 講師 栞田 義一

テキスト オートン・中島悠爾編「国際特急延着」白水社 ¥650.

フランス語

フランス語の授業は下記のクラス編成によって行なう。クラスの編成(所属)は別途指示する。

	フランス語 II (2 講目)	フランス語 I (3 講目)
火曜日	A 組 (目黒教授) B 組 (デュボワ講師)	A 組 (目黒教授) B 組 (村山講師) C 組 (デュボワ講師)
木曜日	A 組 (西講師) B 組 (目黒教授)	A 組 (村山講師) B 組 (西講師) C 組 (目黒教授)

フランス語 I 教授 目黒 士門

A 組 (火曜日) 用書 目黒士門編『新稿フランス文法入門』(第三書房) ¥550—

C 組 (木曜日) 用書 野村二郎編『練習フランス文法』(早美出版社) ¥750—

フランス語 I 講師 村山 紀明

B 組 (火曜日) 用書 朝倉季雄編『スケッチと文法』(白水社) ¥850—

A 組 (木曜日) 用書 工藤肅編『フランス語の手ほどき』(朝日出版社) ¥780—

フランス語 I 外人講師 ブリュノ・デュボワ

(北海道日仏学院専任教師)

C 組 (火曜日) 用書 CREDIF <<De Vive Voix>>. 教室でプリントを配布する。

フランス語 I 講師 西 昌樹

(北海道大学文学部講師)

B 組 (木曜日) 用書 川村克己・手塚伸一共編『新フランス語読本』(駿河台出版社) ¥400—

フランス語 II 教授 目黒 士門

A 組 (火曜日) 用書 ルナール著、渡辺守章編『にんじん』(朝日出版社) ¥600—

B 組 (木曜日) 鬼頭哲人・佐分純一編『忘れ得ぬうしろ姿』(白水社) ¥600—

フランス語 II 講師 西 昌樹

(北海道大学文学部講師)

A 組 (木曜日) プレベール著、安藤次男・成瀬駒男編『おはなし』(第三書房) ¥600—

フランス語 II

外人講師 ブリュノ・デュボワ
(北海道日仏学院専任教師)

B組(火曜日)用書 CREDIF <De Vive Voix>. 教室でプリントを配布する。

[フランス語辞典について]

1. 伊東 英編『現代仏和辞典』(大学書林) ¥2000— [新刊]
2. 多田道太郎他4氏編『クラウン仏和辞典』(三省堂) ¥2800— [新刊]
3. 丸山順太郎・川本茂雄編『コンサイス仏和辞典』(三省堂)
4. 増田俊雄監修・尾上貞五郎編『ポケット仏和辞典』(博友社)
5. 井上源次郎・田島清編 岡田・中原改訂『新仏和中辞典』(白水社)
6. 鈴木信太郎他8氏編『スタンダード仏和辞典』(大修館)
7. その他

詳しくは教室で説明する。

中国語 I

非常勤講師 須藤 洋一
(札幌商科大学専任教員)

教材: テーペとプリント。

副読本: 倉石武四郎『ローマ字中国語語法』(岩波書店)

「耳」からの理解, 「口」を通しての表現に重点を置いて中国語の基本を学ぶ。

中国語 II

非常勤講師 須藤 洋一
(札幌商科大学専任教員)

現代中国の農村に取材した短編小説を読む。単にことばの解釈に終るのではなく, 広く, あるいは深く, 中国を知るための糸口としたい。同時に, テープを繰り返し聞くことで中国語に親しみ, 表現力を養う。

テキスト: 浩然『楊柳風』(北京人民出版社)

スペイン語 I

助教授 寺崎 英樹

火曜・木曜とも下記テキストを並行して学習する。

テキスト: 宮城 昇『新基本スペイン文法』白水社, 900円

M. T. ロホ『ファンとマリア』芸林書房, 800円

スペイン語 II

助教授 寺崎 英樹

なるべく違ったスタイルのスペイン語に慣れるということの一つの目的として, 7月初めまでは, ピオ・パローハの小説, それ以降は, メキシコ史を読む。

テキスト: 大島 正編『サンティ・アンディアの不安』白水社, 450円

小林一宏『メキシコ——世紀から世紀へ』芸林書房, 700円

ロシア語 I

教授 松本 忠司

発音, 文法, 読解, 作文の初歩。

テキスト

東郷正延著 ロシア語教科書 I (初級編) 現代ロシア語社

〃 ロシア語教科書 II (中級編) 〃

教科書 II (中級編) は, 後期後半から次年度の前期にかけて継続使用する。辞書は, 後期後半から使用することになるが, 早めに用意するほうが良い。

ロシア語 II

教授 松本 忠司

学習の眼目とテキスト:

前期 前年度にひきつづき, 「ロシア語教科書 II」(中級編) を使用し, 基礎的なロシア語の表現を学び, 同時に基本的な文法知識を習得することを目標とする。

後期 近代ないし現代のロシア作家の作品のほか, 社会科学関係の論説文の講読に主眼をおく。テキストは未定。

辞書 岩波書店または博友社発行の露和辞典をすすめる。

3 保健体育科目

体育実技 I・II

教授 杉山 登
教授 藤江 正
非常勤講師 中川平悟
(小樽商業高校教諭)

I 体育実技の履修について

体育実技は必須科目であり、各自所定の時間に出席しなければならない。本学では1年目で毎週2時間(60時間)、2年目は前期・後期各2時間(30時間)を選択履修することになっている。

体育実技実施種目は、必修種目と選択種目とからなり、必修種目としては、1年目は水泳、スキー、トレーニング法の実際を行なう。2年目は水泳、スキーのいずれかを選択必修するものとする。また、選択種目としては下記のⅢにあげた5種目中より、1年目は1年間に1種目を選択履修し、2年目は1種目を前・後期いずれかで選択履修するものとする。

II 必修実技種目とその内容

(1) 体力測定

体力診断テスト……反復横とび、垂直とび、背筋力、握力、伏臥上体そらし、立位体前屈、踏み台昇降

運動能力テスト……50m走、ハンドボール投げ、懸垂腕屈伸、持久走(または強歩)

以上の種目であるが、全種目実施が望ましいが、都合により7～9種目程度になることもある。測定実施時期については、第1回目は4月下旬～5月上旬、第2回目が10月下旬～11月上旬である。体力の優劣判定は、文部省体育局のテスト判定基準により、総合点によってA・B・C・D・Eに区分されるが自己の体力の現状を把握しておくことが肝要である。

(2) トレーニング

トレーニング法とその実際について知っておくことは、学生生活および社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかる場合に極めて大切なことである。4月～5月の期間を体力づくりのための一般的トレーニング法、器具器材使用法、トレーニング処方等について実習し、授業時間外でも自分

で処方し、自発的に継続実施できるようにもってゆきたい。なお、体力の劣る者(体力診断テストの結果、D・E級の者)については、5月以降も継続指導してゆきたい。

(3) 水泳

自己安全管理の一環として、水からの事故防止のため水泳技術を修得しておくことは極めて大切なことである。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、3班に分け各班ごとに下記の内容で実施する。技術修得の過程で班を移動する者もある。実施時期等については、6月中旬～7月上旬にかけて3週間(6時間)と夏季休暇後1週間(2時間)で実施するが、詳しい日時はおって掲示等により通知する。

水泳実技内容

区分	実技種目	テスト種目(泳法・距離泳)
初級	・立ち方・背浮・立ちとび込み ・伏し浮・簡易泳法	人工呼吸法 ・背浮・伏し浮からの立ち方……泳法 ・簡易泳法で10m以上……距離泳
中級	・クロール・平泳 ・背泳・バタフライ ・逆飛び込み・潜行	人工呼吸法 救助法 ・泳法3種選択……泳法 ・1種目で25m以上……距離泳
上級	・クロール・平泳 ・背泳・バタフライ ・横泳・立泳	人工呼吸法 救助法 ・泳法5種選択……泳法 ・1種目で50m以上……距離泳

(4) スキー

室内に閉じこもり勝ちな雪国の生活において、自然に親しみながらスキー技術を習得することは、冬季体育の一環として、また将来の社会生活をたのしく健康的なものとするためにも極めて有意義である。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、3班に分け各班ごとに下記の内容で実施する。実施時期等については、1月中旬～2月上旬にかけて4週間(8時間)実施するが、詳しい日時については、おって掲示等により通知する。

スキー実技内容

区分	実技種目	テスト種目
初級	・歩行・滑走法・方向変換 ・転倒法・登行法・直滑降 ・ブルーク・ボーゲン	・ブルーク・ボーゲン ・シュテム・ターン
中級	・上記種目 ・パラレル・ターン	・シュテム・ターン ・パラレル・ターン
上級	・上記中級種目・ゲレンデシュ プルンク ・ウェーデルン	・パラレル・ターン ・ウェーデルン

Ⅲ 選択実技種目とその内容

バレーボール（前期）、バスケット・ボール（後期）、羽球、卓球、ソフトボールの5種目である。前期（5月～9月）、後期（10月～12月）の2期で異なった種目を1種目各々選択履修する。なお、人員等の関係で選択種目の変更をさせることもありうる。また、雨天の場合には体育館内で実施可能な種目に限定される。

Ⅳ 必須実技種目理論

必須実技種目については各々一講分の講義をする予定であるが、その内容、日時に関してはおって通知するが、主として映画を中心としてすすめてゆく。

◆ トレーニング基礎理論 教授 杉山 登

1. 映画 ウェイト・トレーニング、複合トレーニングなど。
2. 理論 トレーニングの意味・原則・種類・方法・処方について。

〈注〉この講義は5月上旬にする予定であるが、おって掲示により通知する。

◆ 水泳基礎理論 教授 杉山 登

1. 映画 クロール・背泳・平泳・バタフライ泳法、人工呼吸法など。
2. 理論 水泳の基本的、技術的要因、基本的泳法について。

〈注〉この講義は6月中旬にする予定であるが、おって掲示により通知する。

◆ スキー基礎理論 教授 藤江 基 正

1. 映画 スキーの基本技術、回転技術、上達のポイントなど。
2. 理論 スキーの安全管理、技術、傷害予防について。

〈注〉この講義は11月下旬にする予定であるが、おって掲示により通知する。

体育講義（前期） 教授 森岡 知 一

健康と疾病の関係を病原、人体、環境の相互関係の中でとらえ、健康保持と公衆衛生の諸問題を考察する。と同時に、保健活動の歴史を通覧し国民保健の動向を考える。伝染病流行の要因とその予防に関する知識を増大させ、また非伝染性疾患とくに成人病に対する対策をも勉強する。そのほか、衣・食・住に関する問題、環境の保全、などについて考え、人口問題、母子保健、身体発育と精神衛生、勤労と保健（産業衛生）・社会福祉及び社会保障と公衆衛生の現状についても言及する。

4 基礎教育科目

経済学概論

講師 鷗 沢 秀

商学概論(前期)

教授 伊藤 森右衛門

- 第1講 序一「商」の念と商学一
- 第2講 経済発展段階と商業の成立
- 第3講 流通組織と経営形態

第1講では、社会科学としての商学を吟味し、その方法と課題について明らかにする。第2講では、商業の発生史的考察を行い、商業思想の歴史的展開を説述する。そして第3講では、大量生産を基軸とする流通組織の史的展開と、商業経営形態の特質について述べ、さらに現代商業の課題について考える。

註、参考文献は、その都度示す。

商学概論(後期)

教授 山下 隆 弘

社会科学としての商学確立のための基礎的概念構築を志向する。

- (1) 商学の課題
- (2) 欲望と交換システム
- (3) 人間モデル
 - (イ) 消費者モデル
 - (ロ) 商企業モデル
- (4) 流通組織体系と市場競争空間

- (5) わが国商業の諸問題
註、参考文献はその都度示す。

法学概論(日本国憲法2単位を含む) (前期)

助教授 大谷 良 雄

本年度前期の法学概論は、近世以降現代に至るまでの法思想の変遷を中心に講義する予定です。その内容は次のとおり。

序 古代及び中世の法思想

I 近世の法思想

- § 1 啓蒙期の自然法思想
- § 2 観念論の法思想

II 近代の法思想

- § 1 歴史主義の法思想
- § 2 法実証主義の法思想
- § 3 自由法学・利益法学・法社会学の法思想

III 現代の法思想

- § 1 新カント派の法思想
- § 2 実存主義の法思想
- § 3 現代の自然法思想
- § 4 マルクス主義の法思想
- § 5 分析的法実証主義の法思想

参考文献

- 恒藤 恭「法思想史概説」(日本評論社, 昭和43年)
- 加藤新平「新版法思想史」(勁草書房, 昭和52年)
- A. P. ダントレーヴ, 久保正幡訳「自然法」(岩波書店, 昭和32年)
- 横田喜三郎「純粹法学」(勁草書房, 昭和32年)
- 長谷川正安「マルクシズム法学入門」(理論社, 昭和27年)
- P. バウンド, 細野武男訳「社会学的法学」(法律文化社, 昭和42年)

法学概論(日本国憲法2単位を含む) (後期)

教授 小原 喜 雄

後半は、教養としての法学知識を与えるため、または専門科目として憲法、

民法, 商法, 経済刑法, 経済法, 労働法, 国際法, 国際取引法などを学ぼう
えでの予備知識を与えるため, 具体的事例をとりあげて, 法の目的, 法の解
釈とはどのようなものであるかなどについて講義する。

教材: 伊藤正己・加藤一郎編「教材法学入門」(有斐閣)

管理科学概論 (前期) 助教授 若林 信夫

(後期) 助教授 沼田 久

この講義の目的の1つは, 学生諸君に管理科学科についての正しいイメ
ージを抱いてもらうことである。

前期: 主として管理科学とは何か, 意見決定理論, 線形計画法, アクティ
ビティアナリシス, シミュレーションを講義する。

後期: 管理科学のなかの大きな分野としてのオペレーションズ・リサーチ
について, その簡単な歴史, 考え方などを述べ, ネットワーク理論,
動的計画法, 待ち行列論, ゲームの理論, 信頼性理論, 探索理論など
について概説する。

参考文献: 必要に応じて講義中に指示する。

数 学 助教授 白川 寛

数学A, B, Cは3つのクラスとも内容は同一とします。1 実変数の微積
分法の講義と演習です。教科書は昨年同様「数学概論1, 鍋谷清治・大成節
夫著 数学基本講座1, 春秋社 223ページ」。目次紹介。

Ⅲ. 関数 Ⅳ. 微分 Ⅴ. 積分 Ⅵ. 微分方程式

なお, I, II, VII, VIIIは, 略します。VIも一部分しか出来ません。
偏微分や重積分を学ぼうとするときは, 「数学概論2, 鍋谷・大成著
数学基本講座2, 春秋社」を読むとよいでしょう。

例年数Ⅲを高校で履習していない学生がかなりいます。数Ⅲの独習を援助
するために, 次の教科書の問題演習を毎回終了前15分ぐらいずつやっていき
ます。数Ⅲ独習の必要な学生は用意のこと。

数学Ⅲ 小平邦彦編 東京書籍 (高校の教科書)

5 専門教育科目

統 計 学 教授 長谷部 亮一

- 1 度数分布の分析
- 2 関係の分析
- 3 時系列の分析
- 4 確率と確率分布
- 5 標本理論
- 6 推定の理論
- 7 検定の理論
- 8 予測と決定

テキスト

森田優三著『新統計概論』(日本評論社)

参考書

森田優三・久次智雄著『演習統計概論』(日本評論社)

数理統計学 教授 久次智雄

講義内容

1. 線形代数(補論)
2. 確率変数と確率分布(補論)
3. 標本分布
4. 多変量正規分布
5. 回帰分析・分散分析の基礎
6. 推定論・検定論の基礎
7. ベイズ的推論
8. 多変量解析

主要参考書(各自入手しておくこと。)

岩田暁一著『経済分析のための統計的方法』(東洋経済新報社)

その他の参考書

講義中に指示します。

その他

1. 「統計学」で取り扱われたテーマについて、数理的により深く考察することから講義を始めます。今年度は後半のテーマ（とくに7, 8）にかなりの時間をかける予定です。
2. 「統計学」, 「数学A」, 「応用数学(代数)」, 「計算機論I」はすでに履修済みであるとして講義を進めます。
3. 問題演習を十分にしておくことを要求します。
4. 遅刻, 欠席等をすると, 単位の取得が困難と思われれます。

経済統計学

教授 長谷部 亮 一

講義内容

国民所得の統計と理論

- 1 国民所得の概念と意義
- 2 国民所得統計の現状
- 3 国内純生産の産業構成
- 4 国民総支出の変動態様
- 5 国民経済計算の体系

参考書

講義中に指示する。

経済原論 I

教授 藤井 栄 一

経済変動論

教授 増井 幸 夫

講義内容:

- 第1章 インTRODクシヨン—問題の所在—
- 第2章 所得および物価水準の決定モデル

- 第3章 成長過程における所得および物価水準決定モデル
- 第4章 マクロ比較動学モデルの分析 (I) —貨幣供給変動効果
- 第5章 マクロ比較動学モデルの分析 (II) —財政支出変動効果
- 第6章 マクロ比較動学モデルの分析 (III) —為替レート変動効果
- 第7章 ケインジアン・マクロモデル
- 第8章 ケインジアン・モデルと動学モデルとの比較
- 第9章 マクロ経済問題—インフレーションと失業
- 第10章 経済安定化政策の効果分析

貨幣経済のマクロ動学分析をとりあげ, 貨幣的景気循環論を検討する。

参考書: M.R.Darby, *Macroeconomics*, McGraw-Hill, 1976; G. ハーバラ—『景気変動論』上・下, 松本外訳, 東洋経済1971; M. Friedman, *Theoretical Framework for Monetary Analysis*, NBER, 1971; A. Leijonhufvnd, *On Keynesian Economics and the Economics of Keynes*, Oxford U. P. 1968 etc.

経済学史

講師 野沢 敏 治

経済学批判の成立に焦点をあて, 以下の構成で講義する。

- 1 古典経済学の確立
 - (1) W・ゴドウィンの問題提起
 - (2) R・マルサスとD・リカードゥとの論争
 - (3) リカードゥ『経済学と課税の原理』の構造
 - (4) 古典経済学の解体
- 2 マルクスにおける経済学批判——市民的日常生活の根底的批判

参考書: 内田義彦『経済学史講義』(未来社)

平田清明『経済学と歴史認識』(岩波書店)

高島・水田・平田共著『社会思想史概論』(岩波書店)

経済原論 II

非常勤講師 安井 修 二

(小樽商科大学短期大学部助教授)

マルクス経済学について講義します。

広い意味でのマルクス経済学の体系は, I 資本主義の一般的原理を明らか

にする『資本論』体系，Ⅱ資本主義の歴史的発展段階の理論としての『帝国主義論』体系，Ⅲ現代資本主義論，という構成をとります。そして通常は、『資本論』体系は経済原論で，歴史的発展段階の理論は経済史（または経済政策）で，現代資本主義論は日本経済論で，という形に分業することになります。したがって，この講義では『資本論』体系が中心になります。

テキストは使用しません。また，参考文献は講義のなかでその都度指示することになります。

計量経済学

講師 遠藤 薫

講義内容

- 1 確率分布とデータ
- 2 経済モデルとデータ
- 3 分析の技法
- 4 政策決定過程

参考書

J. ジョンストン『計量経済学の方法（上，下）』（東洋経済新報社）

経済史概論（前期）

助教授 井上 巽

経済史学の基礎理論を，比較経済史的視角からイギリス・フランス・ドイツ・アメリカの史実を素材として論述する。講義内容は以下のような編成の予定である。

- I 課題と方法
- II 経済発展段階説
- III 封建制論
- IV 封建的危機論
- V 市民革命論
- VI 重商主義論
- Ⅶ 産業革命論

テキストは使用しない。参考文献はそのつど指示するが，さしあたり西洋経済史に関する包括的参考文献として，大塚・高橋・松田編『西洋経済史講座』Ⅰ～Ⅳ（岩波書店），その他，比較的入手しやすい文献として，松田智

雄編『西洋経済史』（青林書院新社）および大塚久雄編『西洋経済史』（筑摩書房）をあげておきたい。

日本経済史（前期）

助教授 長谷川 伸 三

本年度は日本資本主義の発展過程のうち，原始的蓄積期（幕末・明治前期）と産業資本確立期（明治後期）に重点を置いて講義する。テキストを使用するが，講義はテキストの内容に必ずしもこだわらずに進めていく予定である。日本資本主義の特質を経済的側面に限らず，政治的・社会的側面からも歴史的に把握できれば，ほぼ目的は達せられとるいえよう。なお評価はレポートの提出と期末試験の結果によって行なう予定。

テキストの内容を紹介すれば次の通りである。

石井寛治著『日本経済史』東大出版会，1976年刊，1500円。

第1章 幕藩制社会の特質，第2章 原始的蓄積の日本型——明治維新変革の基礎過程，第3章 日本資本主義の確立——帝国主義への同時転化，第4章 戦前日本帝国主義の展開。

参考文献として主要なものをあげておく。

山田盛太郎著『日本資本主義分析』岩波文庫。楫西光速他著『日本資本主義の成立』全2巻・『日本資本主義の発展』全3巻，東大出版会。大石嘉一郎編『日本産業革命の研究』上・下，東大出版会。石井寛治他編『近代日本経済史を学ぶ』上・下，有斐閣。岩波講座『日本歴史』新版，近世5・近代1～4，岩波書店。安藤良雄編『近代日本経済史要覧』東大出版会。永原慶二編『日本経済史』有斐閣。

経済政策

非常勤講師 望月 喜市

（北海道大学法学部附属スラブ研究施設）

- 1 経済政策・計画経済の時代
——市場機構の有効性とその限界——
- 2 有効需要のコントロールをめぐって
——生産・雇用・物価・外資問題と財政・金融政策——
- 3 独占の弊害と産業政策
- 4 公共料金の決定

- 5 外部経済と公共財
- 6 所得再分配政策
- 7 経済体制の比較

工業経済論

教授 吉武清彦

- I 産業構造の意義
- II 技術進歩
- III 独占と競争
- IV 独占対策
- V 二量構造論
- VI エネルギー経済の展望
- VII 日本の公企業の分類と歴史
- VIII 社会資本論
- XI 日本公企業の財政

文献

- 篠原三代平『産業構造論』（筑摩書房，第2版，経済学全集18）
 宮沢・新野・斎藤『現代日本経済論』（有斐閣選書）
 両角良彦『競争と独占の話』（日経文庫）
 吉武清彦『英文日本の公企業』（日本評論社）
 江見康一・塩野谷祐一『日本経済論』（有斐閣双書）

社会政策

教授 吉武清彦

- I 社会政策史
- II 社会政策と労働経済学
- III 社会政策各論

文献

- 大河内一男『社会政策』（総論・各論計2冊）有斐閣
 隅谷三喜男『労働経済論』（筑摩書房）
 隅谷三喜男『労働経済論』（日本評論社）

財政学

教授 早見 弘

- 1 予算政策の目標
- 2 公共財の理論
- 3 公共財の分権的供給
- 4 公共的選択の理論
- 5 租税の規範理論
- 6 租税の実証理論
- 7 租税の理論と実際

参考文献 貝塚・館『財政』（岩波書店）

米原淳七郎『地方財政学』（有斐閣）

その他、講義中に指示する著書，論文。

国際経済論

教授 麻田 四郎

- 1 古典派貿易理論（比較生産費を中心として）
- 2 近代的貿易理論（貿易乗数を中心として）

基本的には昨年度の講義を踏襲しますが，本年度は保護貿易理論にまで議論を拡張しようと思います。現実の諸問題についての解説や批評については例年通り。

（参考書）

麻田・田中編『国際貿易論講義』昭46，青林書院

G. M. マイヤー（麻田・山宮訳）『発展の国際経済学』昭和48・ダイヤモンド社

国際金融論

教授 足立 禎

- 1 国際通貨制度とIMF体制
- 2 外国為替の基礎理論
- 3 先物為替の理論と実際
- 4 持高の理論と為替操作
- 5 中央銀行の市場介入
- 6 金問題

7 国際金融市場

重要参考文献

E. ゾーメン屈伸為替相場制度」足立 勁草書房

足立 禎著 「外国為替市場」 全訂版 日経新書

金融経済論

講師 釜江 廣 志

1 家計・企業の金融行動

2 金融仲介機関

3 金融と経済活動

4 金融政策

テキスト 館・浜田「金融」(岩波)

参考文献 鈴木淑夫「現代日本金融論」(東洋経済)ほか。

今年度は従来以上に実証的分析と制度面にふれてみたい。

なお、年度末の単位認定の際の救済措置は一切行なわない。念のため。

マーケティング

非常勤講師 片桐 誠 士

(小樽商科大学短期大学部教授)

序 マーケティング論の課題—対象と方法

1. マーケティングの成立過程と商業

2. マーケティングの成立と展開

3. 現代マーケティングの特質

4. 現代マーケティング戦略の展開

(1) 価格戦略

(2) 製品戦略

(3) マーケティング・チャネル政策

(4) プロモーション戦略

参考文献

荒川祐吉・森下二次也編著「体系マーケティング・マネジメント」

(千倉書房)

片岡一郎他共著「現代マーケティング総論」

(同文館)

森下二次也監修「マーケティング経済論」下

(ミネルヴァ書房)

田村正紀著「マーケティング行動体系論」

(千倉書房)

販売管理

教授 山下 隆 弘

(1) 伝統的理論とその問題点

(2) オールダーソン理論とその批判

(3) マーケティングシステムの予備的描写

(4) 消費者行動モデル

(5) 小売店行動モデル

(6) 中間業者及び販売員行動モデル

(7) 生産者意思決定とマーケティング情報システム

テキスト。山下隆弘著「マーケティング経営システム論」

商業英語

非常勤講師 北村 正 司

(北海道薬科大学教授)

外国貿易の流れを体系的に展開し、貿易実務と英語商業通信文を統一的に講述し、実務に関する基礎的な知識の習得と商業英語の読解力および表現力の養成をはかりたい。

1. 英語商業通信文の構成と形式

2. 取引関係の樹立

3. 売買契約の成立

4. 売買契約の履行

5. 電報とテレックス

また商業英語の活用に必要な英文法の知識と感覚を養いたい。

テキスト

羽田三郎著「新版英文貿易通信入門」(関書院新社)

証券市場論

助教授 石原 定 和

◎ 戦前における証券市場論は、一口でいえば株式取引所論であり、商業学の一部門として、商品・証券の両取引所を含めて体系づけられていた。これは、戦前の財閥が封鎖的な資金の調達方法を用いたため、公開された証券市場では企業の資金調達という機能よりも、むしろ投機取引という商品売買に共通した面だけが利用されていた事実の反映である。

戦後になると、財閥解体によって産業界は株式市場の本来の機能たる資金調達役割を必要とし、株式市場の育成に乗り出すが、いかんせん発行市場の未発達などの理由により、銀行貸付に偏った間接金融方式が優先した。

高度成長段階の末期になり、やっと株式市場は資金調達面で本来の役割を果たすようになった。しかし、その底の浅さは、山一証券恐慌の姿をとって暴露された（救済措置として日銀法第25条の発動）。

昭和40年以降の安定成長より長期不況への過渡で、国債発行が周知の事実となり、以後国債管理政策が確立されねばならない段階に入っている。

以上のような事情を反映して、証券市場論も取引所の中だけでなく、一方では企業の資金調達面や他方では金融市場との広い関連の中で取扱われねばならなくなった。

本年の講義においては、金融市場の一部としての証券市場を、歴史的・論理的に概説する。

● 参考文献

- 中村孝俊『日本の証券市場』（岩波新書）
- 「『高度成長と金融・証券』（〃）
- 伊牟田敏充その他共著『証券経済論』（有斐閣双書）
- 川合一郎編『日本証券市場の構造分析』（有斐閣）
- 中村・川合・木村・加藤共編『証券経済講座』全5巻（東洋経済新報社）

証券金融論

教授 鈴木 満 直

ポートフォリオ理論を基本とした、資本市場投資論および機能論を講義する。極めて経済学的であり統計学的である。

テキスト 拙著『ポートフォリオ理論と資本市場の機能』勁草書房

経営学原理

助教授 篠崎 恒 夫

I 講義の目的

経営学には、種々の誤解やイメージが付きまとっているのは、研究対象が活きた企業であるからである。そこで、学生が抱いている経営学とは、「企業を経営するための知識」という直接功利的なイメージを少しでも是正するために、科学としての経営学を学生と共に考えてみたい。従って、

講義は、現代企業行動の解明に焦点を合せつつも、経営学が学として成立し、展開する歴史的必然性を説くところから始まる。

II 本科目の位置づけ

経営学は、社会科学の一隅に位置しつつも、自然科学などの他の諸領域との交流も著しい。経営学を学ぶ際の手がかりとして、また他の諸科目との関連を示す意味において、すでに履修していることが望ましいか、または併行して履修を望む科目を挙げれば、つぎの通りである。

社会科学概論、社会思想史、哲学、歴史学、心理学、自然科学概論、社会学、経済原論Ⅱ、経営史、マーケティング

III 講義内容

- 1 経営学の本質と課題
- 2 経営学の成立
- 3 経営管理論の展開
- 4 企業形態論の展開
- 5 経営者論
- 6 人間関係論
- 7 意思決定論

IV 参考書など

講義の初めに参考書についての説明をする予定であるが、概説的なものの中から少なくとも一冊を選んで、早めに読了しておくことが講義の理解に役立つであろう。

馬場克三著「経営経済学」税務経理協会

川崎ほか編著「現代資本主義と経営学説」ミネルヴァ書房

宮川宗弘編著「経営管理基礎論」日本評論社、近刊予定

V 単位認定など

講義は前期4単位とまとめられるので、他の通年科目とはいささかペースが異なるので注意あられたい。5月末頃小テスト、前期試験中本テスト11月中旬レポート提出の予定であるので、掲示類に注意すること。

企業形態論

非常勤講師 藤田 正 一

（札幌大学経営学部助教授）

企業における出資・経営・支配の関係を歴史的に解明し、企業の発展形態

を法律的側面からだけでなく、経済的側面から特に考察する。また株式会社の発展過程における「所有と経営の分離」について重点的に講義する。

- 一、経営学の基礎
- 二、経営形態
- 三、企業形態
- 四、株式会社
- 五、企業集中

テキストは特に指定しないが、講義中、必要に応じ文献、参考書を紹介する。

経営史 講師 辻原 悟

今年、テキストを指定して、アメリカの企業経営の発展史を見てゆくことにしたい。

テキスト：Alfred Q. Chandler, Jr., *The Visible Hand: The Managerial Revolution in America*, Harvard U. P. 1977.

(¥ about 5,500円)

参考文献：A. D. Chandler, Jr., *Strategy and Structure: Chapters in the History of the Industrial Enterprise*, M. I. T. Press, 1962 (三菱経済研究所訳『経営戦略と組織：米国企業の事業部制成立史』実業の日本社, 1967年.)

米川伸一編『経営史学』有斐閣, 昭和52年。

なお、今年、授業を受ける意志のない者は、はじめから遠慮して下さい。昨年度の経験からみてそのことを念のために申し添えます。

労務管理 教授 伊藤 森右衛門

- 第1講 序 —「労務」と「管理」の概念規定—
- 第2講 労務管理の史的展開 —「管理法」の展開と労務管理—
- 第3講 現代企業と労務管理 —「経営理念」としての労務管理—
- 第4講 経営管理と労務管理 —「制度」としての労務管理—
- 第5講 労務管理と人間関係 —「職場社会」としての労務管理—

- 第6講 労務管理と賃金管理 —「職務と誘因」としての労務管理—

- 第7講 労務管理と経営参加 —「労使関係」としての労務管理—

- 第8講 日本的経営と労務管理 —「国際比較」としての労務管理—

生産管理 助教授 中橋 国蔵

A 講義内容

本年度は、組織の一職能部門としての生産部門における管理技術の講義は最小限にとどめて、より広い視野から(生産)組織における管理問題について講義することにした。予定している講義項目はつぎのとおり。

1. 序説：(生産)経営管理の諸問題
2. 近代組織論
3. 意志決定論
4. 社会—技術システム論
5. 条件理論
6. 経営戦略と経営計画

B テキスト

占部都美『改訂経営管理論』白桃書房(昭50)を準テキストとし、さらに H. G. Hicks and C. R. Gullett, *The Management of Organizations*, 3rd ed., McGraw-Hill Kogakusha, 1976 を副読本として使用する予定である。

受講者はあらかじめ、このテキストの指定した部分を精読してくる。

C 主要な参考文献

- 占部都美『戦略的経営計画論』白桃書房(昭43)
- 同 『現代経営組織論』同(昭46)
- 同 (編)『コンピュータ活用ハンドブック』中央経済社(昭51)
- 野中郁次郎『組織と市場』千倉書房(昭49)
- 宮川公男『意思決定論』丸善(昭50)
- 高柳暁・飯野春樹(編)『経営学(2)』有斐閣(昭52)
- 真野脩『組織経済の解明』文真堂(昭53)

これらの文献についての解説は講義のなかで行なうであろう。他の各論的文献についてはその都度あげる。

財務管理

非常勤講師 佐賀卓雄
(小樽商科大学短期大学部助教授)

I 講義内容

規範的財務論について講義する。講義内容は次のようになる予定である。

序論 株式会社の金融構造と企業財務論

(1) 企業形態としての株式会社の特質

(2) 株式会社の構造変化と企業財務論の変遷

(3) 財務管理論の課題と方法

1. 資本調達論

2. 資本予算論

3. 資本構成と資本コスト——資本コスト論争——

4. 配当政策論争

5. 資本構成是正化論について

6. 企業合併の財務問題

7. 「所有と経営の分離」論と財務管理目的

II テキスト

とくに指定しない。

III 参考書

J. F. ウェストン著「企業財務論の方法」東洋経済新報社

高橋昭三著「経営財務論」森山書店

A. A. ロビチェック, S. C. マイヤーズ共著「最適資産調達」東洋経済新報社

後藤幸男・森昭夫編「経営財務」有斐閣双書

古川栄一著「財務管理」経林書房

J. F. ウェストン, E. F. ブリッザム共著「経営財務」I, II, 東京大学出版会

産業心理学

助教授 和田 完

応用心理学としての産業心理学は、きわめて多くの問題を casch-all に

取り扱っているが、それらのテーマの中から人間工学とも通じる話題としてまず「疲労」を取り上げる。次に「職業適性」との関連から、いわゆる心理検査のいくつかを概説し、そのいくつかを実際に受講者に実施し、評価をしてもらう。また特に本年度の授業では、産業社会心理学的問題に多くの時間をさく予定である。

簿記学

(A) 講師 福島 吉春

(B) 講師 中 善宏

(1) クラス編成

クラスは、A, B 2つに分ける。各学年とも学生番号 140 番までは、A クラス、141 番以降は、B クラスとする。各クラスとも授業は、同一步調で進めるよう配慮する。

(2) 授業内容

授業は、複式簿記の原理を十分に理解してもらうことを目標に進める。主な内容は次のとおりである。

§ 1 簿記原理 § 2 取引記帳 § 3 決算整理 § 4 勘定科目解説

§ 5 特殊商品売買 § 6 会社会計 § 7 特殊問題

(3) テキスト

沼田嘉穂, 「簿記教科書—10訂版—」(同文館), 昭53, 別冊「記帳練習帳」

(4) 参考書

片野一郎, 「簿記の手ほどき」(同文館)。片野一郎, 「新稿簿記精説」(同文館)。井上達雄, 「例解会計簿記精義」, (白桃書房)。泉谷勝美, 「簿記学概論」(森山書店)。山榊忠恕, 「複式簿記通論」(中央経済社)。山榊・飯野・染谷共編「簿記原理」・「上級簿記(有斐閣)」。戸田義郎, 「簿記」評論社。黒沢清, 「改訂簿記原理」(森山書店)。阪本安一, 「改訂簿記詳説」(国元書房)。沼田嘉穂, 「新体系簿記会計問題精説」(中央経済社)。横浜市立大学会計学研究室編, 「大学簿記演習」(同文館)。高松和男, 「簿記演習」(税務経理協会)。

簿記演習

非常勤講師 渡辺和夫
(小樽商科大学短期大学部助教授)

本年度は資本会計の問題について講義を行なう。資本会計は株式会社の会計問題のなかでも重要な領域のひとつといえよう。テキストにそって順次説明していくことになるけれども、そのさい現行制度との関連を重視したいと考えている。

テキスト：中村忠著「資本会計論（増訂版）」白桃書房

参考書：新井清光，資本会計論，中央経済社。

新井他編，負債・資本（体系制度会計第3巻），中央経済社。

染谷恭次郎・武田安弘，現代資本会計論，中央経済社。

丹波康太郎，資本会計，中央経済社。

番場嘉一郎編，持分会計論（近代会計学大系第3巻），中央経済社。

会計学

教授 久野光朗

最初の授業でガイダンスを行ない，参考書の紹介などもいたしますが，授業内容を大別すれば次のとおりです。

§1 総論

§2 測定論

収益

費用

資産

負債

資本

§3 伝達論

§4 各論

テキスト：

太田・飯野，『会計学』（千倉書房，1976）

参考書——現在入手可能な標準的参考書：

黒沢清，『近代会計学』（春秋社）

山下勝治，『会計学一般理論』（中央経済社）

飯野利夫，『財務会計論』（同文館）

青柳文司，『会計学の原理』（中央経済社）

黒沢清（主編），『近代会計学大系』第1巻～第5巻，第10巻
（中央経済社）

神戸大学会計学研究室編，『会計学辞典』（同文館）

管理会計

講師 中善宏

管理会計は，革新的な発展過程の中にある新たな学問領域であるが，その発展は，基本的には，データの単なる収集と記録から，意志決定のための財務データの伝達への移行である。そこで本年度の講義においては，会計情報の経営管理者による意志決定への役立ちに焦点を置いて講義することにする。そのさい，できるだけ伝統的会計の中で使用されている技法・概念に基づいて議論を進めるつもりである。すなわち，伝統的会計システムの中で求めうるデータをいかに再構成して，意志決定に有用な情報を作り出すかに重点を置くことにし，最近の管理会計に導入された種々の新たな技法については，それに触れてもあまり重点を置かないことにする。また，理解を助けるために演習問題をしばしば行なう予定である。

講義内容

序論，管理会計の体質 §1. 意志決定のための会計情報 §2. 意志決定における情報の利用 §3. 意志決定実施のための計画・統制システム。

テキストは，特に指定しない。参考文献は，適時指摘するが，全般的には次のものが適当である。

(1) 溝口一雄編，「管理会計講義」（青林書院新社）昭47

(2) 吉田彰著，「意志決定のための管理会計」（同文館）昭50

外国書講読（英語）

佐々 蘭

Frederick E. Webster, Jr., Social Aspects of Marketing, Prentice-Hall, Inc., 1974, を講読する。授業は輪読形式とし，出席は重視する。なお，言うまでもないことであるが，外国書講読は専門教育科目であり，それ故講義の重点は語学力の習得ではなくマーケティングに関する専門知識の教授に置かれる。

前期：英語論文の講読を行う。

- (1) 投入産出分析。(IBM System J. No. 4, 1977)
- (2) 協力ゲーム。
- (3) スケジューリングの理論。
- (4) バックトラック・プログラミング。

後期：ORのためのプログラム言語の教育。

- (5) SNoBoL。
- (6) APL。
- (7) GPM。
- (8) WIDES。

参考書：

根岸隆編「社会科学への招待経済学理論篇」(日本評論社1977)。

根岸隆編「経済学Ⅰ 価格の理論」(有斐閣双書1975)。

注意：

受講者は経済学の基礎知識、微積分、経済的プログラミング技術に興味を持っていることが望ましい。指定文献の複写と計算センターのファイルコピーは受講者が行う。

管理科学特講Ⅱ(前期)Ⅲ(後期)非常勤講師 浅利英吉

(東海大学工学部札幌教養部助教授)

管理科学特講Ⅱ・Ⅲは、現代の数理的経営管理に用いられる「経営科学」とよばれている数学手法からオペレーションズ・リサーチ(略してOR)と称されているものを中心としていくつかを選び、その基礎理論と実際について講義するものである。ORは確率論、数理統計学を中心に、待合せ、在庫取替、線形計画法、シミュレーション、ゲーム論、PERT法、情報理論、実験計画法などの手法を含み、自然科学、人文科学を問わず広く利用されている境界領域の学問であり、技術である。これら各手法は数学における工具あるいは工作機械、調査分析のための測定機器といった役割を果すもので、たとえば待合せといった名称はその手法の発見の動機となったり、あるいはモデルをなした現象・問題・用途に因んで付けられたものである。そしてあ

たかも工具におけるようにその用途や用法にはかなりの融通のきくものであるが、何かまとまった理論体系をなしているわけでもない。したがって、どの手法から学び始めてもよいのだが、数理統計学の素養を必要とするものが多いので、その履修の度、一般的な理解の容易さ、社会的な利用度などを考え、この講義にて4種の手法を論ずる。すなわち特講Ⅰ・Ⅳとあわせて2年間で8種の手法を学ぶことができよう。なお、この手法の選定に当っては開講時にまず手法全般について解説した上で受講生諸君の希望を聴取し、それによるものとする。教材としては培風館の「オペレーションズ・リサーチ理論と実際」を使用するが、適宜プリントを作成・配布してその欠けたところを補うものとする。

事務機械化

助教授 山田一生

現代のマネジメントは、激動する環境の中で、たえずその環境の変化に適応するための経営革新を遂行しなければならない状況におかれている。本来事務機械化とは、事務作業の機械化を意味し、事務機械化の発展は、1)事務作業そのものの解明。2)事務システムの検討。3)管理活動のルーチン化などの点からアプローチすることができる。ところが事務の本質上からして、次第に事務機械化が発展すると、一定の段階で質的に転化し、マネジメント職能の部分的機械化現象が必然的に生じるのであり、いわゆる経営機械化へと移行するのである。

したがって、現代の事務機械化は、単に事務作業の機械化のみを対象とするのではなく、特に現実の企業経営における情報処理機能の重視という観点から、管理のための準備業務を担当する管理事務機能の機械化、自動化を志向するものとなる。このように、現代の事務機械化は、経営管理と密接不可分の関係にあり、今日的には情報システムズ・アプローチの適用によって、さまざまな管理システムへのアプローチを登場させている。管理情報システム(Management Information Systems)はもとより、そのアプローチの方法にすぎないのであるが、企業経営における情報システムの機能が重視されるとともに、単に情報を生産するだけではなく、豊富な情報の中から真に経営意思決定に役立つ情報を検索し提供するシステムとして究明される。すなわち、管理情報システムは、経営管理への情報システムズ・アプローチとして展開されるのである。

ここで、経営情報論の生成過程について、MIS研究の立場からの体系的検討を試みるとすれば、まずMIS前史としての事務管理論（事務の機械化レベル）から、経営事務管理論（管理の機械化レベル）、経営情報管理論（経営の機械化レベル）へと発展段階的にとらえるのであり、さらにはより人間中心的なアプローチである経営組織管理論（組織システムのレベル）へと展望されるであろう。本講座では、これらの詳細についても考察する予定である。

テキスト：山田一生著『企業組織管理論』（文真堂、予刊）

参考文献：参考文献は多数あるので、講義の中で必要に応じて、その都度紹介することにした。しかしながら、特に開講義時点であげてみれば(イ)J.E. ロス著、鈴木・山田共訳『現代経営のシステム理論』（日本経営出版会）、(ロ)宮川公男著『意思決定論』（丸善株式会社）(ハ)田中次男『MISの新展開』（日刊工業新聞社）の三冊であろう。

応用数学（代数） 助教授 沼田 久

経済学、管理科学、統計学等の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線形計画問題の解法の初歩に触れること、線形代数が経済学や経営科学にどのように応用されているかを知ることなどである。計算機論Ⅰ、応用数学（解析）とともに管理科学科の学生は必ず履習することが望ましい。

この科目を履習しているうちに、現代の経済学を学ぶには線形代数の素養が不可欠であることを悟るに至るであろう。その意味で、この科目はむしろ経済学科や商業学科のために開設されているようなものである。

高等学校的な数学の得手、不得手とはあまり関係はない。ただし若干の数学的センス（論理的能力と言ってもよい）または、ある程度の根気のあることが望ましい。当然のことながら、最後まであきらめずに頑張り通す者に好意を寄せたくなるのは人情である。

テキスト：線形数学入門1978年版。（入手方法は掲示する）

応用数学（解析） 非常勤講師 小林 正 忠 （専修大学北海道短期大学教授）

差分方程式と微分方程式とを教授する。

講義では、教科書の不備のところをおぎない、問題が解ける実力を養いたい。結果から見れば、受講者と独学（欠席）者との差を明確に区別出来る授業を実施したい。それが私の目標なのである。

教科書 「ORのための基礎数学」3

著者 松田正一、洲之内治男、杉山昌平共著

出版社 丸善株式会社

参考書を求めたい人もあろうが、先づ教科書を十分に勉強してからにした

応用数学（統計Ⅱ） 助教授 清水川 緋紗子

統計学履習済みのこと

応用数学特講Ⅰ（前期） 非常勤講師 山口 忠

（北海道大学工学部講師）

応用数学特講Ⅱ(後期) 非常勤講師 山口 忠
(北海道大学工学部講師)

計算機論Ⅰ 助教授 樋口 透

コンピュータのしくみを理解し、使い方(プログラミング)を学ぶことに主眼をおく。講義時にはプログラミング言語の説明に十分時間があてられないので自習は欠かせない。演習問題を年間10問程度提出してもらうので講義に出席するだけでは単位の修得は期待できない。教科書では触れられていないテーマについても講義するつもりである。

教科書は

A. I, フォーサイス他(浦昭二訳)「コンピュータサイエンス入門」基礎編と応用編 培風館

計算機論Ⅱ 助教授 戸島 潤

リスト処理言語 Lisp について、まずプログラミング言語として解説した後、そのプロセッサの構造を詳しく論ずる予定である。

参考文献などについては講義のときに順次紹介する。

憲法(前期) 助教授 高見 勝利

憲法判例を中心に、戦後におけるわが国の憲法現実を明らかにしてゆきたい。その際、類似の事案に対して、諸外国でどういった憲法判断を示しているかといった視角も、付随的ではあるが採り入れて、戦後の憲法現実の特性に迫ってみたい。

テキスト・中村・秋山・千葉編著 増補教材憲法判例(北海道大学図書刊行会)

参考書 伊藤正己著 憲法入門(有斐閣)

民法Ⅰ 非常勤講師 飯塚 和之
(小樽商科大学短期大学部助教授)

民法は、私法の基本法であり、民法学で用いられる諸法概念は、他の法律学の基礎をなしている。民法学を大きく分けると、財産法と家族法に分けることができるが、本学では、民法Ⅰ、Ⅱにおいて財産法の領域をカバーしている。本年度の民法Ⅰは、民法典のうち「総則」「物権」の両編を中心に講義をする。重要論点は判例を中心に検討してみたい。

テキスト:我妻・有泉著『民法Ⅰ(総則・物権)(第三版)』(一粒社, 1,200円)

参考文献:山島ほか編『教材民法判例』(北大図書刊行会)

このほかに、六法は必須である。

民法Ⅱ 助教授 神田 孝夫

次の諸テーマを中心に講義する。

- 1 物権変動と債権の移転
- 2 担保物権
- 3 各種の契約(前年度民法Ⅰの補足)
- 4 不法行為
- 5 相続

テキスト 山島・神田ほか編「教材民法判例」(北大図書刊行会)

出席者が少ない場合はゼミ室(417号室)で行なうことがあるので注意して下さい。

商法Ⅰ 助教授 青竹 正一

はじめに商法の序論的説明を与えたのち、主として会社法をとりあげる。現今の企業のほとんどは共同企業の典型的形態である会社組織をもって経

営されており、現代の資本主義経済は会社とりわけ株式会社制度とはなれては考えられないといつてよい。会社法は、このような会社組織の成立から消滅に至る諸段階における利害関係人の利益調整を行なうことを主たる目的としている。講義は、かかる目的を把握したうえで、会社法が現実の企業活動において實際上どのように機能しているかを知るために、できる限り判例などの具体的素材を提起しながら進めていく。従って関係の判例はあらかじめ読んでおくことが望ましい。

なお、商法は専門・技術的性格が強い法律なので講義を聞かないで単位をとることは難しいであろう。

教科書：上柳・北沢・鴻・竹内編『会社法Ⅰ，Ⅱ（有斐閣双書）』

参考書：鈴木竹雄著『新版会社法（全訂第一版）』弘文堂

ジュリスト別冊『商法の判例（第三版）』

ジュリスト別冊『会社判例百選（新版）』

鈴木他編『新商法演習Ⅰ，Ⅱ』有斐閣

（全訂増補版）

商 法Ⅱ 非常勤講師 石原 全

（小樽商科大学短期大学部助教授）

本年度は、前期で手形法・小切手法、後期で商行為法を講義します。いずれも全てを詳論するのは無理ですので、重点的に、前期では小切手法、後期では運送営業・倉庫営業を中心にして行うことになります。

主な参考文献：

大隅・大森：商法概説(2)（有斐閣）

服部：手形小切手法（商事法務研究会）

河本：約束手形法入門（有斐閣）

（鴻：小切手法入門（〃））

西原：商行為法（〃）

服部：商行為法講義（〃）

手形小切手法判例百選（新版増補）（別冊ジュリスト）

商法（総則・商行為）判例百選（〃）

労 働 法

助教授 道 幸 哲 也

雇用関係に由来する法的紛争をいかに解決するかを主に裁判所を素材にして講義します。その内容は概略以下のとおり。

I 総論 市民法から社会法へ

II 集団的労働法 (1)労働組合 (2)団体交渉 (3)労働協約 (4)争議行為 (5)下当労働行為制度 (6)官公労働法

III 個別的労働法 (1)労働契約・就業規則 (2)賃金 (3)労働時間 (4)労災 (5)女子・年少者保護 (6)解雇・懲戒

受講しようとする者は、民法及び労働関係に関する基礎知識が必要です。

<テキスト> 使用しない。

<参考書> ジュリスト別冊「労働判例百選（3版）」。なお、小六法（岩波もしくは有斐閣）は不可欠です。

経 済 法

教授 小 原 喜 雄

(1)独占、カルテル等による市場メカニズムの歪曲を国家権力の介入によって是正しようとする国内経済法、および(2)各国の経済法間の抵触を国際的に解決しようとする国際経済法を扱う。今年度の講義は、独禁法の改正により独占状態の規制、課徴金の納付命令、株式の総量規制、および価格の同調的引上げの規制が可能になったこと、構造不況法の問題点、ならびに多国籍企業の規制の問題点に重点をおく。

テキスト：小原喜雄編著「ケース・ブック経済法」（蒼文社）

参考書：ジュリスト別冊53「独禁法審決・判例百選」（第2版）（有斐閣）

国 際 法

助教授 大 谷 良 雄

本年度の国際法は、できるだけ国内及び国際裁判所における判例を参照し次の順序で講義を行う。

I 国際法の基本構造

§1. 国際法の性質

§2. 国家の地位

II 国際法の新しい動向

§ 1. 多元化する国際社会

- (i) 国際連合の立法作業
- (ii) 内政不干涉原則の転換
- (iii) 条約義務の継承
- (iv) 人権の司法的保護

§ 2. 国際経済活動と法

- (i) 通商航海条約の機能
- (ii) 貿易自由化原則の構造とその動揺
- (iii) 企業形態の国際化

§ 3. 資源の管理と南北問題

- (i) 海洋資源の配分と管理
- (ii) 陸上資源の開発と国有化

§ 4. 国家責任の拡大強化

- (i) 被害者保護と国家責任
- (ii) 国際犯罪の取締り

参考文献

祖川武夫・小田滋編著「わが国裁判所の国際法判例」(有斐閣, 昭和53年)
 皆川 洸編著「国際法判例集」(有信堂, 昭和50年)
 皆川洸・山本草二編「演習国際法」(青林書院新社, 昭和52年)
 内田久司・山本草二編「国際法を学ぶ」(有斐閣選書, 昭和52年)

国際機構論

丸山直起

戦後国際社会の構造分析で、理論を中心に、適宜ケース・スタディを扱う政策決定論、システム論、国際統合、紛争・平和研究をとりあげる。

テキストは使用しない。参考書については、授業の際示す予定。

6 教職科目

教育原理

非常勤講師 松田光一

(小樽女子短期大学助教授)

(テキスト) 要説新教育原理 飯塚「銀次」
 —教職教養のために— 片山清一 } 共著

参考書は随時指示する予定。
 出席を重視する。

高陵社書店

英語科教育法

非常勤講師 岩城禮三

(小樽商科大学短期大学部助教授)

テキスト:

立間, 孫野, 米山共著『新英語科教育法』(松柏社) ¥1,200
 北市, 船津, 岩城, 浪田共著, *Teaching English as a Foreign Language: A Book of Readings*, (英宝社) ¥1,450

評価はクラスワーク, 筆記試験, レポートなどの結果を統合して行なうので遅刻のない出席を重視します。開講時に無断で継続して欠席した学生, または前期に1/3以上欠席した学生は履習者名簿から除外します。

教育史(後期)

非常勤講師 竹田正直

(北海道大学教育学部助教授)

教育史の学習・研究は、たんに過去の教育現象を知るためのみあるのではない。あくまで、今日の教育課題の解決と将来展望の把握に資することが主目的である。それは、今日の教育が過去との連続として存在する、という程度の意味ではなく、教育現象もまた、社会現象の一つとして運動し、発展するものであり、その法則性と本質の解明により自己の中に科学的見通しを確立することを意味する。

子殺しが日常的ですらあった原始社会から、子育てが、社会生活諸過程から独自の教育過程として分化し、その典型として学校を生みだし、広く普及・発展してきた。子どもの、ひろくは国民の教育を受ける権利が、その教育内容の科学化とともに発展してきた歴史を、今日にいたるまで各時代ごとに典型的な諸国の事例を上げ、各時代の経済的・政治的諸過程との関係において分析し、講義する。

職業指導

非常勤講師 石井 茂

(北海道大学教授)

英語 (上級Ⅲ)

講師 下村 五三夫

テキスト：①Fred West, *The Way of Language, An Introduction*, Harcourt Brace Jovanovich, Inc.

② John Lyons (ed.), *New Horizons in Linguistics*, Penguin Books.

①を共通テキストとして使い、比較語学、古期中期英語、言語地理学、英語音声学論、伝統文法、構造主義言語学、生成文法諸派(変形文法、生成意味論、格文法、成層文法その他)、文字論、言語習得、電算機言語学へのいざないをいたします。②は①で扱う内容を細部にわたって検討するときのいわば辞書として使用します。また外国語実験室の各種解析装置を使い英語音声学を音響的側面からも指導いたします。今年度は主として、母音・子音の波形解析と、イントネーション曲線の実時間表示の技術を指導いたします。

英語 (上級Ⅳ)

助教授 君 羅 久 則

テキスト：W. Shakespeare, *Henry IV, Part I*. Arden ed., ¥600.

参考書：(1) C. T. Onions, *Shakespeare Glossary*. Oxford/Kinokuniya Reprint. ¥800.

(2) E. A. Abbott, *A Shakespearian Grammar*. 3rd ed., London. 1870.

(3) 大塚高信, 「シェイクスピアの文法」, 研究社, ¥1,700.

(4) 大塚高信, 「シェイクスピア手帖」, 研究社, ¥600.

テキストの他(1)と(4)は各自が用意すること。(2), (3)は本学図書館に備えられている。その他の参考書や劇構成, *Versification*などの重要なことは最初の時間に紹介し, 説明するので必ず出席されたい。

英語学Ⅱ

テキスト：Margaret M. Bryant et al; *Modern English Syntax*, 成美堂, ¥1,300.

上記のテキストにより英文構成の原理を把握することに努める。履修者が教職志望であることを念頭におき, テキストの内容を英語で理解するだけでなく, 理解したことを英語で表現する比較的高いレベルのPracticeも行っていくつもりである。予習・復習には毎週かなりの時間が必要と思われるので, 英語の学習に強い意欲を持ってない者, また, 理由は何であれ, 継続的に出席出来ない者はこのクラスの履修を遠慮されたい。履修届を出されても, 開講時から無断で3回以上欠席した者, 前期に1/3以上欠席した者は履修者名簿から除外し, その後のクラスへの出席は認めない。

英文学Ⅱ

教授 脇田 勇

テキスト Ifor Evans: *A Short History of English Literature*, Fourth Revised and Enlarged Edition.

ペリカン・ブックス(英潮社扱)760円

上記の「小英文学史」の輪読を通して, 英文学における小説の歴史的発展を考えて行くが, 劇及び詩もあわせて検討する。履修学生各自に, 特定の作家, 作品の研究を課題として与え, そのレポートについての質疑応答を通し, 相互の研鑽を深めて行く。

参考文献については, 講義の進行につれ指示する。

III 研究指導要項

麻田教官担当研究指導

- 1 研究主題
国際経済学（理論および政策）の諸問題
- 2 指導要領
3年度生は原書（英語）の輪読。卒業年次生は個別テーマによる卒論指導
- 3 テキストおよび参考書
未定。後日一括発注。

足立教官担当研究指導

- 1 研究主題
国際金融にかんする諸問題……国際通貨制度、為替相場制度、金問題
SDR, L/Cなど。
- 2 指導要領
 - (i) 全 般……小樽商科大学の卒業生として恥ずかしくないだけの国際的視野と語学力の養成に重点を置く。
 - (ii) 3年次……国際金融の基礎理論と実際およびこれらに関連した語学力の養成。3年次生は必ず国際金融を履修し、単位を取得すること。万一単位を取得できない場合は自動的にノンゼミに移行する。
 - (iii) 4年次……個別的研究指導および卒業論文。
- 3 指導テストおよび参考書
 - (i) 3年次……講義のはじめに指示する。
 - (ii) 4年次……プリンストン大学国際金融双書などを用いる。

長谷部教官担当研究指導

- 1 研究主題
日本経済あるいは北海道経済にかんする統計的分析
- 2 指導要領
個別テーマによる研究・報告・討論
ただし3年次はテキストの輪読
- 3 テキスト
53年度は、金森久雄編「景気予測入門」（日本経済新聞社）

早見教官担当研究指導

- 1 研究主題 財政と財政政策に関する研究
- 2 指導要領 3年生は以下のテキストを読む。その後のテキストは検討のうえきめる。4年生前半までテキスト中心の学習、その後卒論の発表を連続させる。
Jack Hirschleifer, *Price Theory and Applications* (Prentice-Hall, 1976).
- 3 申込みの条件 経済学概論を履修済みとのこと。英語の読解力が高いこと。

久次教官担当研究指導

- 1 研究主題 統計学の数理的方法論に関する研究。
- 2 指導要領
3年次：基礎的文献の講読。
4年次：個別研究テーマに応じた追加文献の講読および卒業論文の作成。
- 3 指導テキスト
3年次生：S. S. Wilks, "Mathematical Statistics", John Wiley, 1962.
4年次生：(1)石井吾郎著『数理統計入門』培風館
(2)H. Theil, "Principles of Econometrics", John Wiley, 1971.
- 4 申し込みの条件
 - (1) 「統計学」を履修中または履修済みであること。
 - (2) 研究意欲の旺盛であること。

- 5 選考の方法 面接およびテストによる。
- 6 その他
解析学(偏微分, 重積分の初歩など), 線形代数(固有値問題など), プログラミング(FORTRAN)については2年次までに修得しておくこと。

藤井教官担当研究指導

- 1 研究主題
一般均衡論
- 2 指導要領
卒論の作成を目標にして基礎的な手法に十分なれることに重点をおきます。
- 3 指導テキストおよび参考書
さしあたり, ヒックス「資本と時間」などを読みますが非常に多量の図書・論文を読みたいと思っています。

増井教官担当研究指導

- 1 研究主題 経済変動の理論的・実証的研究
- 2 指導要領
 - イ 全般: 貨幣理論に基礎をおく変動論の研究
 - ロ 3年次: 基礎的文献の輪読
 - ハ 4年次: 個別研究テーマの報告, 討論
- 3 指導テキストおよび参考書
W. H. ブランソン著『マクロ経済学』(嘉治・今野訳) マグロヒル好学社昭51, G. E. Makinen, Money, The Price Level and Interest Rates, Introduction to monetary Theory, prentice Hall, 1977.

吉武教官担当研究指導

- 1 研究主題
社会政策及び工業経済学をめぐる諸問題。今年最近刊行された下記著書を中心として福祉国家問題に焦点をしばってみたい。
- 2 研究指導

- (イ) 3年次生は下記ロブソン教授の本を輪読
- (ロ) 4年次生は各次卒業論文にとりかかる
- 3 指導テキスト及び参考書
W. A. Robson, *Welfare and Welfare Society* (London: George Allen & Unwin, 1976) p.197 約2,300円
- 4 申し込みの条件
上記ロブソンの原書は, かなりの語学力と社会科学の知識を必要とするので, 英語の実力のある者に限る。経済学概論その他一般に成績の良好な者を優先する。
参加を認められた者であっても, 将来欠席回数が多く, 欠席回数がゼミ回数の1/2をこえる時には除名する。

井上教官担当研究指導

- 1 研究主題
経済史の実証的研究
本年度は特例として, 北海道経済史の実証的研究を行う。その際, 特に本学の所在する小樽の経済的発展過程の研究に主眼を置き, こうした小樽経済史をさらに全道的・全国的な広がりにおいて理解するように研究を深めていきたい。
- 2 指導要領
最初の「1ヶ月間は, 講義と適当なテキストを用いて北海道経済史に関する一般的知識を得ることとする。そのうえで, 北海道経済史上に占める小樽の地位を具体的に明らかにするため, 小樽の港湾と商業, 金融・銀行業, 工業さらに労働運動などの発達・展開過程の統計的・実証的研究を行う。その際, 史料の収集・整理それ自体が一つの重要な研究作業となり, また特に, 尨大な統計表の読み方と整理などの具体的作業と訓練が重視されることとなる。
- 3 テキストおよび参考書
後に指示する。
- 4 その他
不断の, そして不屈の学問的精神と努力を期待する。

長谷川教官担当研究指導

- 1 研究主題
日本経済史（近世・近代）の分析方法。
- 2 指導要領
本年度はまず日本経済史の古典的労作を通して、経済史の分析方法を学び、日本資本主義の特質について理解を深めたい。ついで特定の時期の具体的問題の検討に進みたい。
各自の研究（卒論）テーマは、3年次の終りまでに設定すること。日本の近世・近代経済史のなかから個別テーマを設定することが望ましいが、前近代史、現代史、政治史、思想史、女性史等でもよい。
- 3 指導テキストおよび参考書
3年次、山田盛太郎著『日本資本主義分析』岩波文庫。参考書、野呂栄太郎著『日本資本主義発達史』岩波文庫、他。
3年次後半～4年次は未定。
- 4 申し込みの条件
「経済史概論」「経済原論Ⅱ」を履修することが望ましい。自己の研究課題設定の意欲を有すること。
- 5 選考の方法
希望者は、あらかじめ400字詰用紙2～3枚に、①自己紹介、②研究してみたいテーマ、③読んで印象に残っている歴史書または社会科学の古典等につき記し、研究室に提出すること。
選考は面接（希望者が10名をこえればテストも）による。
- 6 その他
ゼミ活動の一環として、見学や研究旅行（3年次秋、道外3～4泊）を行なう予定。

遠藤教官担当研究指導

- 1 研究主題 計量経済モデル
- 2 指導テキスト S. Valavanis, Econometrics

釜江教官担当研究指導

- 1 研究主題
金融の実証的研究（計量経済学的手法を用いて）
- 2 テキスト
J. ジョンストン「計量経済学の方法」（東洋経済）を53年度は使用。
- 3 申込の条件
2年終了時まで「経済学概論」をパスすることを必須の条件とします。また「統計学」も履習していることが望ましい。
なお3年生は「金融経済論」を履習すること。
- 4 選考方法
経済学と英語のテストにより選考を行なう予定。

野沢教官担当研究指導

- 1 研究主題
古典経済学とマルクス経済学
- 2 指導要領
3年次……1840年代におけるマルクスの経済学研究の歩みを追ひ、1850年代の労作『経済学批判要綱』に集中する。
4年次……『国富論』を共同で読む。各人は古典研究のなかで自己のテーマを見つける。

久野教官担当研究指導

- 1 研究主題
会計学（簿記学をふくむ）
- 2 指導要領
3年次：わが国の『企業会計原則』の批判的研究と外書講読を中心にして基礎的知識を修得させる。
4年次：卒業論文の指導—各人の発表をもとにしてディスカッションを行なう。
- 3 指導テキストおよび参考書

3年次の前半において

片野一郎, 『簿記精説(上)・(下)』(同文館, 1977)を講読し, 後半から外書を使用する。

4 申し込みの条件

2年次終了時において語学その他の基礎教育科目の所要単位を取得し, かつ簿記学の単位を優秀な成績で取得可能な者。

5 その他

ゼミという組織にかんがみ, ゼミに求める以上にゼミに貢献できる人物を望みます。

鈴木教官担当研究指導

International Capital Transfer.

テキスト

G.W. McKenzie, The Economics of the Euro-Currency System. 1976.

W.H. Branson, Stocks & Flows in International Monetary Analysis, 1974.

R.A. Mundel, Monetary Theory, 1971.

山下教官担当研究指導

1 研究主題

マーケティング・システム・モデルの研究

2 指導要領

(イ) 全般: 研究主題にかんする基礎的文献の研究を行い, モデルビルディングの理論と実務を研究する。

(ロ) 3年次生は下記テキスト及び参考書についての報告と討論の形式をとる。尚レポートを義務づける。

(ハ) 卒論指導(卒論は共同研究の形をとる事も可)

3 指導テキストおよび参考書

山下隆弘著マーケティング経営システム論 (白挑)

アムスタッツ著山下訳マーケティングの計量モデル (新評論)

R.J. Markin Jr. Retailing Management (Macmillan)

その他

和田教官担当研究指導

極めて多様な領域を包摂する産業心理学の分野でも, 産業精神衛生は特に日本において等閑視されたテーマとあってよい。しかし, 人間の経済活動に伴う心理的, 社会的ストレスがさまざまな精神衛生上の問題を誘発するのは疑いない事実である。本ゼミナールでは, これらの問題の中からいくつかのテーマを選び学生と一緒に検討を加えることを意図している。まず, 3年次においては, 精神障害の基礎的理解を助けるため, 臨床心理学と社会精神医学の概説書を読破してもらおう。次に, 実際の障害者を知るために精神病院などの見学, 実習を行なう。4年次には, 各自の卒論テーマに従って必要な文献研究に入るが, 一部学生は社会調査に基づく実地研究を実施することになるだろう。

ゼミナールで使用する文献は基本的な概説書を除くとほとんどが英文の論文である。できるだけコピーを配布することに努めるが, やむなく購入を要する書籍はその都度指示する。

石原教官担当研究指導

1. 研究主題

証券市場理論・証券市場の歴史(アメリカ・日本)

2. 指導要領

原書の講読, 報告, 討論。

3. 履修要件

経済原論(Ⅰ), (Ⅱ), 経済史概論を履修済みのこと。

4. 使用テキスト

アメリカの金融市場, 証券市場に関する歴史書を原書で読む。
例えば, Vincent P. Carosso, Investment Banking in America, 1970.

Harvard Univ. Press,

篠崎教官担当研究指導

1 研究主題

管理組織論の客観的批判的分析。

2 指導要領

当初、社会科学のものの考え方の基礎的なところを固めるように意図する。漸次、専門的に、行動科学的組織論へと向う。

3 テキスト、参考書

3年次生

大塚久雄著「社会科学の方法」岩波新書

内田義彦著「社会認識の歩み」 //

「資本論の世界」 //

本田修郎「科学思想史概説」朝倉書房

4年次生

バーナード「経営者の役割」ダイヤモンド社

サイモン「経営行動」 //

March & Simon, *Organizations*, Wiley, 1958

篠崎教官担当研究指導

1 研究主題

管理組織論の客観的・批判的分析

管理組織論を広い視野（特に思想史を中心に）から捉えて行こうとするもので、当面の題材はバーナード組織論である。

2 指導要領

当初、社会科学のものの考え方を基礎的に固める。のち、専門的に行動科学組織論へと向う。やり方としては、下記テキストを読み進めることを軸として、それに関連する概念などのレポートを作成してもらう。行動科学的組織論の方法論的批判の線で卒論を作成するのを最終目標とする。

3 テキスト

大塚久雄「社会科学の方法」岩波新書、内田義彦「社会認識の歩み」同、本田修郎「科学思想史概説」朝倉書房、バーナード「経営者の役割」ダイヤモンド社

中橋教官担当研究指導

1 研究主題

経営意思決定論・組織論

2 指導要領

53年度：下記のテキストを講読して、意思決定論・経営組織論の基本問題と基礎概念を学習する。できるだけ早い時期に、個人研究へとすすむ。

54年度：個人研究の報告の積み重ねによって卒論を作成する。D.A.

3 指導テキスト

① J.G. マーチ/H.A. サイモン著土屋守章訳『オーガニゼーションズ』ダイヤモンド社、昭52¥2,000

② J.D. Thompson, *Organizations in Action*, McGraw-Hill, 1967, ¥3,500ぐらい。

中教官担当研究指導

1. 研究主題

管理会計

2. 指導要領

3年次生：管理会計についての概観と基本的な概念の理解、および英語の読解力をえるために下記のテキストを講読する。

Anthony, R.N. and G.A. Welsch. *Fundamentals of Management Accounting*. Homewood, Illinois: Irwin, 1974.

4年次生：卒業論文の指導—各自の選択したテーマについて発表してもらい、議論する。

3. 参考図書

3年次生は、ゼミ開始前までに次の参考書を読んでおくこと。

(1) 溝口一雄著、「例解工業簿記」（中央経済社）、

(2) 吉田弥雄著、「現在管理会計論〔改訂版〕」（同文館）、昭48

4. 申し込み条件

2年次終了時において簿記学の単位を取得可能なもの。

辻原教官担当研究指導

1. 研究主題 企業経営の発展史研究
2. 指導要領
53年度：基本的文献を読む。
3. 指導テキスト
A.D. Chandler, Jr., Strategy and Structure, 1962.
A.D. Chandler, Jr., The Visible Hand, 1977.
T.C. Cochran, 200 years of American Business, 1977.
4. その他
(1) 歴史に興味がある事。
(2) 毎週それ相応の努力を必要とするので、出来ない人は申し込まない事。
(3) 協調性のない人は申し込まない事。(ゼミ旅行, コンパ等。)
(4) 将来, 学究の道を志す人は歓迎する。

戸島教官担当研究指導

1. 研究主題
Lispの処理系の開発と記号処理の研究。
2. 指導要領
LISP 1.5の universal function と対比しつつ, LISP 360のsource program を解説し, Lisp 処理系の内部構造について理解をふかめ, それをもとに新しく Lisp の処理系を開発し, それを使用して数式処理のアルゴリズムを研究する。
3. 指導テキストおよび参考書
LISP 1.5 Programmer's Manual.
Stanford LISP 1.6 Manual.

沼田教官担当研究指導

1. 研究主題
オペレーションズ・リサーチ
2. 指導要領

まず, オペレーションズ・リサーチ全般について学び, 外国書を読む練習をする。そのあと, 整数計画, ネットワーク問題についての入門書を読む予定。

樋口教官担当研究指導

1. 研究主題
システム分析に関する研究(手法と応用)
2. 指導要領
3年次: システム理論に関する文献の講読およびコンピュータ・プログラミング技法の習得
4年次: 各自の卒論テーマについて研究発表を行なう。テーマは, ①人工知能に関するもの(コンピュータによるゲーム・プログラム, 定理証明など), ②ソーシャル・システム・モデルの構築(地域開発モデル, 教育システム・モデル), ③システムの最適化に関するもの, ④経済モデル(SDモデルと計量経済モデルと比較など) ⑤システム分析のコンピュータ手法に関するもの(オン・ライン・シミュレーション技法の研究と開発)
3. テキスト M.D. メサロヴィッチ編「一般システム理論の研究」(一楽他訳 日本能卒協会)
4. 申し込みの条件
計算機論 I, 応用数学, 管理科学を履修済みのこと。

山田教官担当研究指導

1. 研究主題
Management Information Systems
組織変革と情報システムに関する理論的ならびに実証的研究。(本ゼミ活動ばかりでなく, サブゼミ活動も併行しながら, 種々の事例研究を通じての具体的 Models の開発研究も予定している。本年度は, 特に Decision Support Systems for Project Planning & Budgeting というプロジェクト研究への共同参加を通じて, 上記の目標を達成する予定である。)
2. 指導要領
(1) 全般: 現代組織管理に役立つ情報システム設計のための基礎理論と応

用能力の涵養をはかり、明日の組織管理者あるいはシステム・エンジニアとしての適応力を高めることを目標とする。

- (ロ) 3年次：使用テキストに従い、輪読形式で討論をすすめる。サブゼミ活動も同時併行する。
- (ハ) 4年次：各自のテーマによる卒業論文の指導と完成。種々の事例研究を通じて理論と実践との橋渡しをはかる活動も同時併行する。

3 指導テキストおよび参考書

- (イ) H.A. Simon, The New Science of Management Decision, Reuised Edition, Harper, 1977.
- (ロ) H.A. Simon, Administratiue Behaiior, 3rd Edition, Free Press, 1976.

(注) その他3点ほど予定するが、紙面の都合で割合する。

4 申込みの条件

上記の研究活動への積極的な参加意欲と行動力をそなえた人物であり、しかも研究活動を継続するための時間的余裕と基礎的学力に支障のないことを条件とする。真の人間尊重をめざした道具としてのコンピュータの活用をはかるためにも、各自のプロジェクトを完遂する努力家を歓迎する。

若林教官担当研究指導

1 研究主題

管理科学の基礎的研究

対象となるシステムが、国民経済であれ、企業経営であれ、あるいは、計算機であれ、それらの管理システム、管理プロセスの抽象化を通して、システムの最適化行動を各種の局面、技法から追求する。

2 指導要領

- (イ) 管理科学の幅の広いもの見方、考え方を養う。
- (ロ) テキストの精読と演習。
- (ハ) 経済的プログラミングの習得。
- (ニ) 下記のテーマについての卒業論文の作成。

・シミュレーション ・データベースシステム ・数理計画法
・ミニ・コンパイラ ・ユーティリティプログラム ・数理経済学

3 指導テキストおよび参考書

Knuth, D.E., Fundamental Algorithms, 2nded. 1973.

Date, C.J., An Introduction to Database Systems, 2nded.1977.

Wirth, N, Algorithms+Data Structures=Programs, 1976. のうちから。

小原教官担当研究指導

1. 研究主題

多国籍企業の市場行動と法的規制多国籍企業の市場行動が本国および投資受入国に及ぼす影響ならびにそれに対する法的規制の問題を研究する。

2. 指導要領

3年次生：下記テキストの講読

4年次生：卒業論文テーマによる研究報告

3. 指導テキスト

Nationalism and the Multinational Enterprise—Legal, Economic and Managerial Aspects, ed. by H.R. Hahlo, J.G. Smith and R.W. Wright, (1973, Oceana Publishing Inc.).

参考書

国連事務局報告書「多国籍企業と国際開発」(国際開発ジャーナル社), 登田・小宮・渡辺編「多国籍企業の実態」(日本経済新聞社), 朝日新聞経済部「多国籍企業」, キンドルバーガー「国際化経済の論理」(ペリカン社), カナダ産業構造特別委員会報告書「外国資本と国民経済」(ペリカン社), バーマン「国家利益と多国籍企業」(東洋経済新報社)等

青竹教官担当研究指導

1 研究主題

会社法の研究

2 指導要領

- (イ) 全般：会社法が現実の企業活動とどのようなかかわりを持っているかを、判例・学説上重要と思われるいくつかの具体的問題をとおして検討し、会社法の現実的機能を理解してもらうことを目的とする。

- (ロ) 53年度～54年度前期：使用テキストのうちいくつかの問題を選び、報

告・討論してもらう。

(ハ) 54年度後期：各自の選択による論文の作成とそのための報告・討論を
してもらう。

3 指導テキストおよび参考書

- (1) ジュリスト別冊『商法の判例(第三版)』
- (2) ジュリスト別冊『会社判例百選(新版)』
- (3) 鈴木他編『新商法演習1, 2』有斐閣

4 その他

報告者以外の者もあらかじめ十分に勉強されてくることを望みます。

大谷教官担当研究指導

1. 研究主題

ヨーロッパ共同体法を中心とした、国際法、国際組織法、国際経済法
の研究

2. 指導要領

- 3年次：下記テキストの講読
4年次：卒業論文の作成指導

3. 指導テキスト

Pierre Pescatore, *Le Droit de l'integration*, Sijthoff Leiden 1972.

(場合によっては、この英訳を使用)

神田教官担当研究指導

1 研究主題

民法判例の研究

2 指導要領

民法判例の研究をととして民法の理解を深める。

毎回、二件の判例につきその要旨と問題点の分析を参加者に順次レポー
トしてもらい、全体で論議し検討する。

四年次の九月以降は、卒業論のテーマに関する研究状況を数次にわたり報
告させる。

3 指導テキストおよび参考書

「民法判例百選 I, II」(ジュリスト別冊・有斐閣)

「民法の判例」(有斐閣) 「民法の争点」(有斐閣)

4 申し込みの条件

民法 I を履修中の者であること。但し、二月に行なう民法 I の試験で及
第点をとれない者は、その時点で辞退することを期待する。

三年次又は四年次に民法 II を履修すること。

5 選考の方法(面接・テスト等)

参加希望者が異常に多い場合にのみ行なう。その方法は後日通知する。

6 その他

研究意欲旺盛で地道に勉強する態度が必要です。

なお、相当の理由なく欠席するような態度をとる者に対しては卒論の相
談は一切応じません。

高見教官担当研究指導

3年次：憲法的な考え方、感覚を身につけるために、身近な憲法問題をと
りあげ、議論したい。それと併行して、現代社会について考えさせ
る書物をじっくり読んでゆきたい。

4年次：卒論指導。各自のテーマについて、くり返えし、発表とレポート
を求める。

丸山教官担当研究指導

1. 研究主題

現代の国際関係論

2. 指導要領

3年次：テキスト講読を中心とし、時に応じて具体的ケースを扱う。

4年次：卒論指導

3. テキスト

3年次：(1) 武者小路公秀他編『国際学—理論と展望』(東大出版会)
1976年, 2, 200円

(2) Robert O. Keohane and Joseph S. Nye(eds.),
Transnational Relations and World Politics, Harvard Univ.
Pr. 1972. p.398.

道幸教官担当研究指導

1. 研究主題 労働法及び労働問題の研究
2. 指導要領
53年度前半：現代の法制度と労役関係についての基礎知識を身につけるために文献講読。
53年度後半，54年度：労働法判例の検討。毎回，全員がレポートを提出する。
3. 申込みの条件
 - ① 民法，民事訴訟法につき自主的に勉強する意思のある者。
 - ② 労働現場・労働運動に興味があるもの。

※一般教育ゼミ

助教授 栗生沢 猛 夫

ロシア語を用いながら，ロシア・ソ連邦の国家と国民について若干のイメージを獲得することを目ざします。この目的達成のための最良の手段，方法の一つと考えられるのは，ロシア・ソ連邦の歴史に親しむことです。そこで次の文献から，重要かつ興味深いと思われる箇所を抜粋して，講読したいと考えます。История СССР с древнейших времен до наших дней, М-Л. 1966 - (全12巻)

ゼミナール参加希望者は，4月20(木)12時小生の研究室に集合のこと。

※一般教育ゼミ (ドイツ語中級)

教授 中川 勇 治

これは自由聴講の時間として開講し，ドイツ語読解力を深めるのが目的である。既にドイツ語I, IIを履習した人々を対象とする。テキストは受講者との話し合いできめる。

一般教育ゼミ

助教授 丸 山 直 起

指導内容：アラビア語による学習。前半はアラビア語文法の初歩，後半は物語，新聞などを読む。資格，経験は一切問わない。

テキスト：A. S. Tritton, ARABIC, Teach Yourself Books, ¥740.
Filstīn, Tārīkhuḥā wa Qadiyatuhā (Palestine, its history and problem)